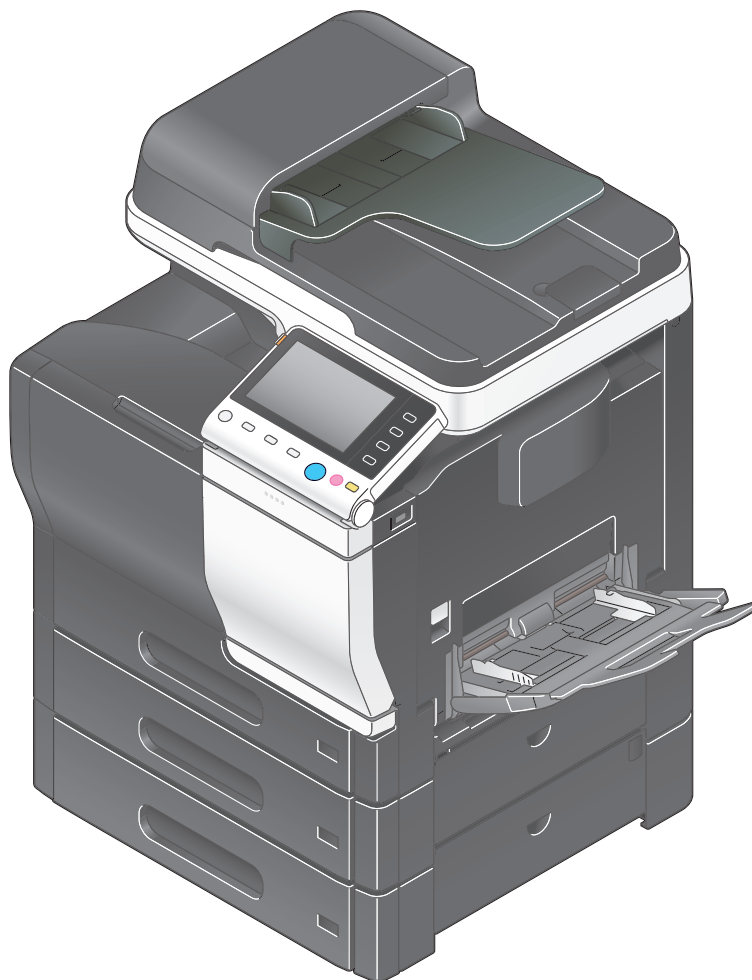


bizhub C3850

ユーザーズガイド スキャン機能編



もくじ

1 スキャン送信機能について

1.1	スキャン送信機能でできること	1-2
1.2	送信のしかた	1-3
1.2.1	送信する（基本的な操作の流れ）	1-3
1.2.2	プログラムを呼出して送信する	1-5
	プログラムについて	1-5
	プログラムを登録する	1-5
	プログラムを呼出して送信する	1-7
1.3	宛先の指定	1-8
	よく使う宛先（常用）から選ぶ	1-8
	登録宛先から選ぶ	1-9
	直接入力する	1-10
	履歴から選ぶ	1-11
	メールアドレスを LDAP サーバーから検索する	1-12
1.4	スキャン送信のオプション設定	1-13
1.4.1	カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定	1-13
	原稿を読み込むカラーモードを選ぶ（[カラー]）	1-13
	読み込む原稿のサイズを設定する（[読み込みサイズ]）	1-13
	原稿を読み込む解像度を設定する（[解像度]）	1-13
	読み込んだ原稿データを保存するファイル形式を設定する（[ファイル形式]）	1-14
	原稿の両面を読み込む（[片面 / 両面]）	1-14
	ファイル名や E-mail の件名 / 本文を変更する（[文書名 / 件名 / 他]）	1-15
	ファイル名を変更する（[文書名]）	1-15
1.4.2	原稿の読み込み方法の設定	1-16
	原稿をセットした方向を指定する（[原稿セット方向]）	1-16
	原稿のとじしろを指定する（[原稿のとじしろ]）	1-16
	大量の原稿を数回に分けて読み込む（[連続読み込み]）	1-16
1.4.3	画質 / 濃度の調整	1-17
	原稿の内容に適した画質を選ぶ（[原稿画質]）	1-17
	原稿を読み込む濃度を調整する（[濃度]）	1-17
	読み込む原稿の下地の濃度を調整する（[下地調整]）	1-17
	文字などの境界をくっきりさせる（[シャープネス]）	1-17
1.4.4	その他のオプション設定	1-18
	E-mail を暗号化する（[メールの暗号化]）	1-18
	E-mail にデジタル署名を付加する（[デジタル署名]）	1-18
	原稿データの保存先を E-mail で知らせる（[URL 通知先設定]）	1-18
1.4.5	現在の設定内容を確認する	1-18

2 E-mail に添付して送信する（E-mail 送信）

2.1	E-mail 送信機能について	2-2
2.2	E-mail 送信の準備（管理者向け）	2-3
2.2.1	準備の流れ	2-3
2.2.2	お使いになるために必要な作業	2-4
	LAN ケーブルの接続を確認する	2-4
	ネットワークの設定を確認する	2-4
	E-mail 送信の使用環境を設定する	2-4
2.2.3	必要に応じて行う作業	2-4
	よく送信する宛先を登録する	2-4
	宛先の指定に LDAP サーバーを使う	2-4
	送信する E-mail の件名と本文を登録する	2-5
	SMTP 認証を使う	2-5
	POP before SMTP 認証を使う	2-5
	SSL/TLS で通信する	2-5
	S/MIME を使う	2-5
2.3	送信のしかた	2-6



2.4	応用機能の紹介	2-8
2.4.1	自分宛てに送信する (Scan to Me)	2-8
	Scan to Me について	2-8
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	2-8
	操作の流れ	2-8
2.4.2	E-mail の暗号化とデジタル署名の付加をする (S/MIME)	2-9
	S/MIME について	2-9
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	2-9
	操作の流れ	2-9

3 コンピューターの共有フォルダーに送信する (SMB 送信)

3.1	SMB 送信機能について	3-2
3.2	SMB 送信の準備	3-3
3.2.1	準備の流れ	3-3
3.2.2	コンピューター側：お使いになるために必要な作業	3-4
	Windows 7/8 をお使いの場合	3-4
	Windows Vista をお使いの場合	3-7
	Windows XP をお使いの場合	3-10
	Mac OS X 10.5/10.6/10.7/10.8 をお使いの場合	3-13
3.2.3	本機側：お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	3-16
	LAN ケーブルの接続を確認する	3-16
	ネットワークの設定を確認する	3-16
	SMB 送信の使用環境を設定する	3-16
3.2.4	必要に応じて行う作業	3-17
	よく送信する宛先を登録する	3-17
	WINS サーバーを使う	3-17
	ダイレクトホスティング SMB サービスを使う	3-17
	LLMNR を使う	3-17
	DFS 環境で使う	3-17
3.3	送信のしかた	3-18
3.4	応用機能の紹介	3-20
3.4.1	自分のコンピューターに送信する (Scan to Home)	3-20
	Scan to Home について	3-20
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	3-20
	操作の流れ	3-20
3.4.2	原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)	3-21
	URL 通知について	3-21
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	3-21
	操作の流れ	3-21

4 FTP サーバーに送信する (FTP 送信)

4.1	FTP 送信機能について	4-2
4.2	FTP 送信の準備 (管理者向け)	4-3
4.2.1	準備の流れ	4-3
4.2.2	お使いになるために必要な作業	4-4
	LAN ケーブルの接続を確認する	4-4
	ネットワークの設定を確認する	4-4
	FTP 送信の使用環境を確認する	4-4
4.2.3	必要に応じて行う作業	4-4
	よく送信する宛先を登録する	4-4
	プロキシサーバーを使う	4-4
4.3	送信のしかた	4-5
4.4	応用機能の紹介	4-7
4.4.1	原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)	4-7
	URL 通知について	4-7
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	4-7
	操作の流れ	4-7



5 WebDAV サーバーに送信する (WebDAV 送信)

5.1	WebDAV 送信機能について	5-2
5.2	WebDAV 送信の準備 (管理者向け)	5-3
5.2.1	準備の流れ	5-3
5.2.2	お使いになるために必要な作業	5-4
	LAN ケーブルの接続を確認する	5-4
	ネットワークの設定を確認する	5-4
	WebDAV 送信の使用環境を確認する	5-4
5.2.3	必要に応じて行う作業	5-4
	よく送信する宛先を登録する	5-4
	プロキシサーバーを使う	5-4
	SSL で通信する	5-4
5.3	送信のしかた	5-5
5.4	応用機能の紹介	5-7
5.4.1	原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)	5-7
	URL 通知について	5-7
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	5-7
	操作の流れ	5-7

6 本機の HDD に保存する (HDD 保存)

6.1	HDD 保存機能について	6-2
6.2	保存のしかた	6-3
6.3	HDD に保存したファイルを活用する	6-6
6.3.1	HDD に保存したファイルをダウンロードする	6-6
6.3.2	HDD に保存したファイルを確認または削除する	6-7
6.4	応用機能の紹介	6-8
6.4.1	原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)	6-8
	URL 通知について	6-8
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	6-8
	操作の流れ	6-8

7 USB メモリーに保存する (USB 保存)

7.1	USB メモリー保存機能について	7-2
7.2	USB メモリー保存の準備	7-2
7.3	保存のしかた	7-3

8 Web サービスで送信する (WS スキャン)

8.1	WS スキャン機能について	8-2
8.2	WS スキャンの準備	8-3
8.2.1	準備の流れ	8-3
8.2.2	本機側：お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	8-4
	LAN ケーブルの接続を確認する	8-4
	ネットワークの設定を確認する	8-4
	WS スキャン送信の使用環境を設定する	8-4
8.2.3	コンピューター側：お使いになるために必要な作業	8-5
8.2.4	本機側：必要に応じて行う作業 (管理者向け)	8-6
	SSL で通信する	8-6
8.3	スキャン送信のしかた	8-7
8.4	コンピューターから取込む	8-9

9 TWAIN/WIA スキャンで画像を取込む

9.1	TWAIN/WIA スキャン機能について	9-2
9.2	TWAIN/WIA スキャンの準備	9-3
9.2.1	本機側：お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	9-3
	LAN ケーブルの接続を確認する	9-3

	ネットワークの設定を確認する.....	9-3
9.2.2	コンピューター側：お使いになるために必要な作業	9-3
	コンピューターの動作環境	9-3
	スキャナードライバーのインストール（Windows 環境の場合）	9-4
	スキャナードライバーのインストール（Mac OS 環境の場合）	9-4
9.3	TWAIN スキャンのしかた	9-5
9.4	WIA スキャンのしかた	9-7
9.5	スキャナードライバーのアンインストール	9-8
	Windows 環境の場合	9-8
	Mac OS 環境の場合	9-8

10 よく使う宛先を登録する（短縮宛先）

短縮宛先について	10-2
E-mail 宛先を登録する	10-2
SMB 宛先を登録する	10-3

11 索引



スキャン送信機能について

1 スキャン送信機能について

1.1 スキャン送信機能でできること

本機で読込んだ原稿データは、コンピューターやサーバーへ送信したり、本機の HDD に保存したりできます。

スキャン送信機能を使うには、あらかじめ設定が必要な場合があります。詳しくは、各機能の説明をご覧ください。

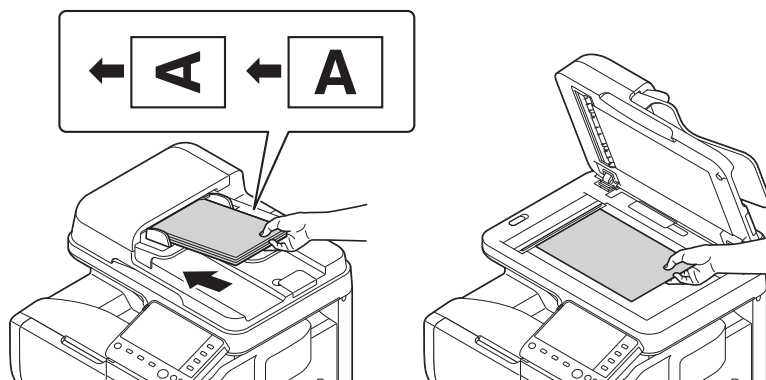
スキャン送信機能には、次の種類があります。

機能	説明
E-mail 送信	変換したファイルを E-mail に添付して、任意のメールアドレスに送信します。
SMB 送信	変換したファイルをコンピューターの共有フォルダーへ送信します。送信先を自分のコンピューターやファイルサーバーなどにして使います。
FTP 送信	変換したファイルを FTP サーバーへ送信します。FTP サーバーを通じてファイルの受渡しをするときに便利です。
WebDAV 送信	変換したファイルを WebDAV サーバーへ送信します。WebDAV サーバーを通じてファイルの受渡しをするときに便利です。
HDD 保存	本機で読込んだ原稿データを本機内蔵の HDD に保存します。 HDD に保存した原稿データは、コンピューターで Web ブラウザーを使ってダウンロードできます。
USB メモリー保存	本機で読込んだ原稿データを本機に接続した USB メモリーに保存します。
WS スキャン	面倒な環境設定をすることなく、コンピューターからスキャンの指示をして原稿データを取込んだり、本機でスキャンした原稿データをコンピューターに送信したりできます。 Vista 以降の Windows コンピューターで対応しています。
TWAIN/WIA スキャン	ネットワーク上のコンピューターから、TWAIN/WIA に対応した各種アプリケーションを通じて、本機で読込んだ原稿データをファイルに変換して取込みます。

1.2 送信のしかた

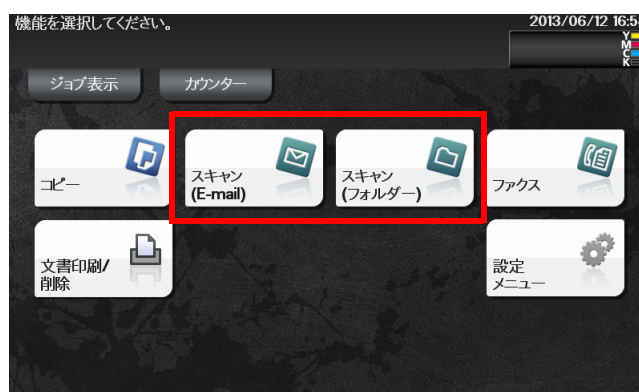
1.2.1 送信する（基本的な操作の流れ）

- 1 原稿をセットします。



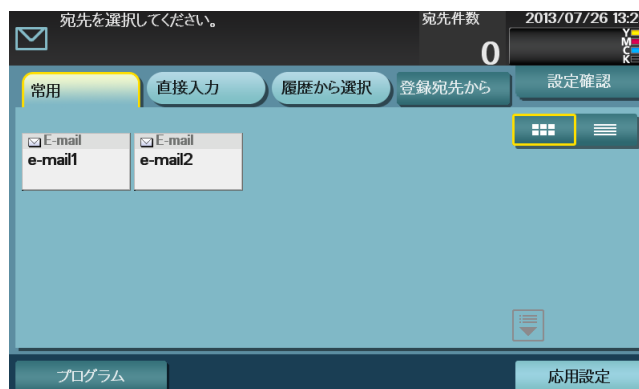
- 2 目的の機能のキーをタップします。

- E-mail 送信を行う場合は、[スキャン (E-mail)] をタップします。
- SMB 送信、FTP 送信、WebDAV 送信、HDD 保存、USB メモリー保存、WS スキャンを行う場合は、[スキャン (フォルダー)] をタップします。

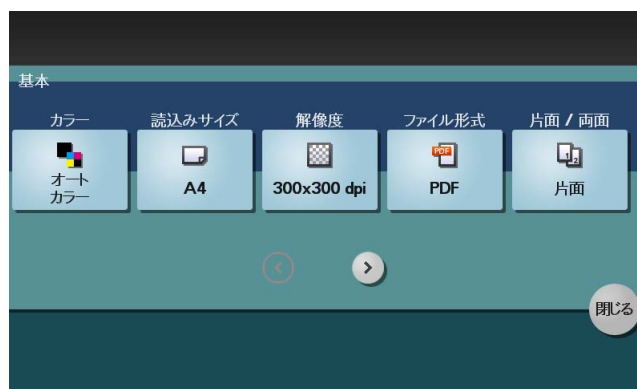


- 3 宛先を指定します。

- 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-8 ページをごらんください。
- 複数の宛先を指定することもできます。



4 「応用設定」をタップし、スキャン送信のオプション設定をします。



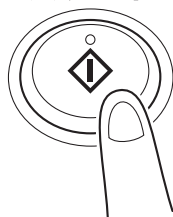
- 本機で原稿を読み込む前に、読み込む原稿のサイズを設定する必要があります。原稿サイズを正しく設定しないと、画像が欠ける場合があります。原稿サイズの設定については、1-13 ページをご覧ください。
- オプション設定について詳しくは、以下の各項目をご覧ください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-13 ページ
原稿の読み込み方法を設定したい	1-16 ページ
原稿の内容に応じて画質や濃度を調整したい	1-17 ページ

5 スタートを押します。

- 必要に応じて、送信前に「設定確認」をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
- 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。
- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止します。原稿の読み込みを中止したいときは、ジョブ画面から停止中のジョブを削除します。

スタート



送信が開始されます。



関連設定

お使いの環境に合わせて、スキャン送信のオプション設定の初期値を変更できます。
設定するには：[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [ファクス / スキャン設定] - [スキャン初期設定]

1.2.2 プログラムを呼出して送信する

プログラムについて

プログラムは、よく使うオプション設定の組合わせと宛先情報を、1つの呼出しキーとして登録する機能です。

プログラムを登録すると、トップ画面からワンタッチでオプション設定の組合わせと宛先情報を呼出せます。

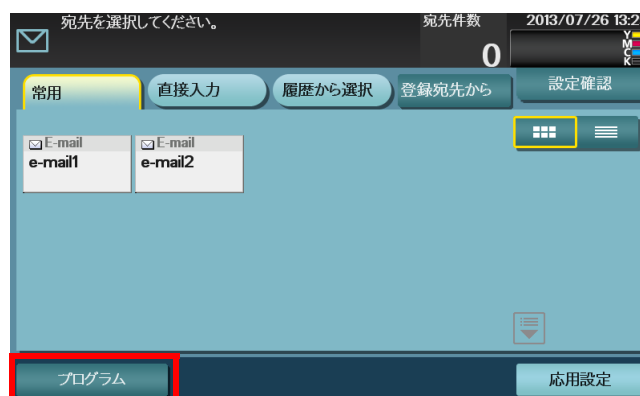
プログラムを登録する

プログラムは400件まで登録できます。

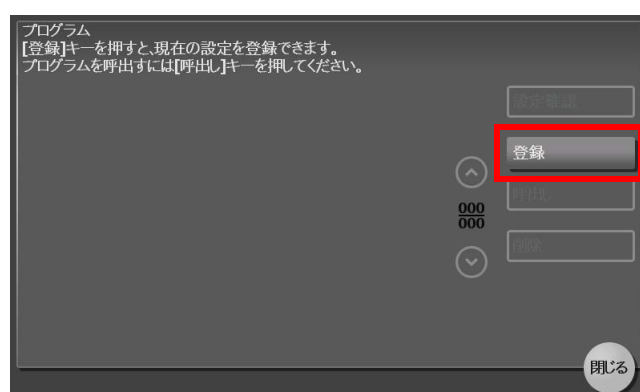
すでにプログラムが400件登録されている場合は、不要なプログラムを削除してから登録します。

- ✓ プログラムを登録するには、あらかじめ短縮宛先の登録が必要です。宛先の登録のしかたについて詳しくは、10-2 ページをごらんください。

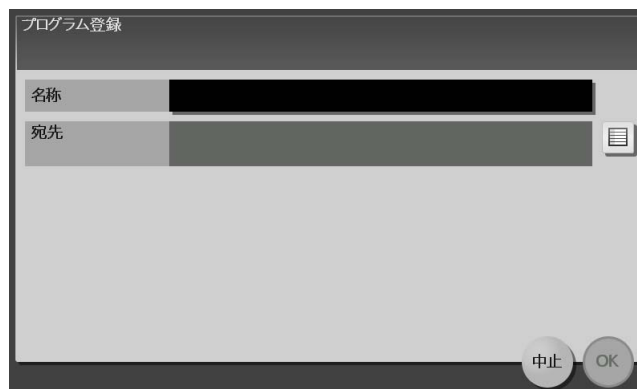
- 1 [スキャン (E-mail)] または [スキャン (フォルダー)] をタップします。
- 2 [応用設定] をタップし、スキャン送信のオプション設定をします。
→ ここで設定した状態を、プログラムとして登録します。
- 3 [プログラム] をタップします。



- 4 [登録] をタップします。



5 プログラムの名前と宛先を指定し、[OK] をタップします。



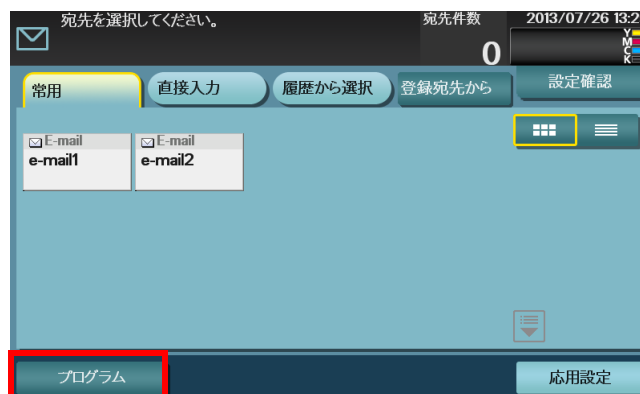
設定	説明
[名称]	プログラムの名前を入力します（72 バイト以内）。
[宛先]	本機に登録されている短縮宛先またはグループ宛先から選びます。宛先は 1 件まで指定できます。

参照

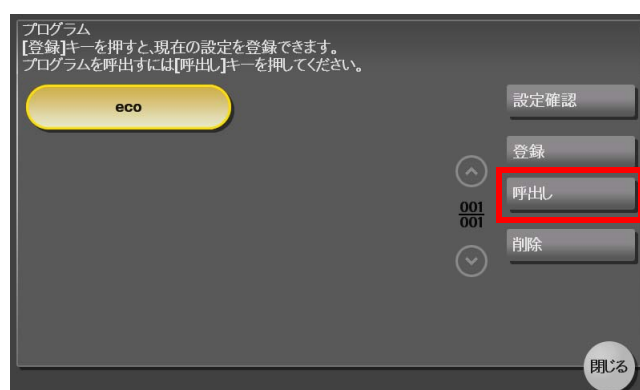
プログラムは **Web Connection** でも登録できます。詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

プログラムを呼出して送信する

- 1 原稿をセットします。
- 2 [スキャン (E-mail)] または [スキャン (フォルダー)] をタップします。
- 3 [プログラム] をタップします。



- 4 呼出したいプログラムを選び、[呼出し] をタップします。
プログラムの登録内容が反映されます。



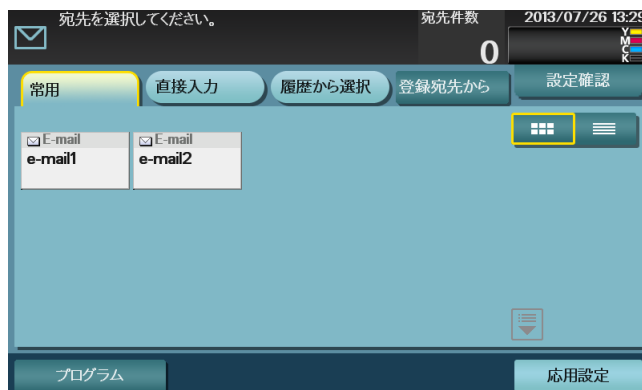
- [設定確認] をタップすると、選択したプログラムの登録内容を確認できます。
- [削除] をタップすると、選択したプログラムを削除できます。

- 5 スタートを押します。
 - 必要に応じて、送信前に[設定確認] をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 - 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。送信が開始されます。

1.3 宛先の指定

よく使う宛先（常用）から選ぶ

本機に登録されている宛先を選びます。[常用] には、宛先登録時に、よく使う宛先（常用）に設定した宛先が表示されます。複数の宛先を選ぶと、同報送信できます。



項目	説明
	宛先の表示を、ボタン表示またはリスト表示に切替えます。
	宛先の表示エリアを拡大／縮小します。 宛先キーの件数が多く、1 画面に収まらない場合に表示されます。
スクロールキー	宛先の表示エリアをスクロールします。 宛先キーの件数が多く、1 画面に収まらない場合に表示されます。



参照

宛先の登録のしかたについて詳しくは、10-2 ページをごらんください。

登録宛先から選ぶ

「登録宛先から」をタップすると、アドレス帳を表示します。アドレス帳から、本機に登録されている宛先を選びます。複数の宛先を選ぶと、同報送信できます。



登録した宛先に設定した検索文字や宛先種類を指定して、アドレス帳に表示する宛先を絞り込みます。

項目	説明
[常用]	宛先登録時に、よく使う宛先（常用）に設定した宛先を表示します。
[グループ]	グループ宛先を表示します。
[宛先種類]	登録した宛先の種類で、宛先を絞り込みます。
[名称検索]	宛先の登録名で検索します。
[LDAP]	LDAP サーバーや Windows Server の Active Directory をお使いの場合は、サーバーからメールアドレスを検索して選べます。詳しくは、1-12 ページをごらんください。

参照

宛先の登録のしかたについて詳しくは、10-2 ページをごらんください。

グループ宛先は、**Web Connection** でのみ登録できます。登録のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

直接入力する

[直接入力] で、保存または送信したい宛先の種類のキーをタップしてから、宛先情報を入力します。
複数の宛先を指定するときは、[次宛先] をタップすると、30 件まで宛先を追加できます。

[E-mail]

設定	説明
E-mail アドレス	宛先とするメールアドレスを入力します (ASCII 文字 320 バイト以内)。

[ファイル送信 (FTP)]

設定	説明
[ホスト名]	宛先とする FTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。 - ホスト名の入力例: 「host.example.com」 - IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 - IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ファイルパス]	[ホスト名] に入力した FTP サーバーの保存先フォルダー名を入力します (127 バイト以内)。 - 入力例: 「scan」 FTP フォルダー内のフォルダーを指定したいときは、フォルダー名の間に「/」を入力します。 - 入力例: 「scan/document」 ファイルパスを指定しない場合は、「/」を入力します。 - 入力例: 「/」
[ユーザー名]	宛先の FTP サーバーで認証が必要なときは、ログインできるユーザー名を入力します (ASCII 文字 63 バイト以内)。 入力例: 「public_user」
[パスワード]	パスワードを入力します (ASCII 文字 63 バイト以内)。
[ポート番号]	必要に応じて、ポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [21] です。
[Pasv]	お使いの環境で PASV モードを利用しているときに選びます。
[プロキシ]	お使いの環境でプロキシサーバーを利用しているときに選びます。

[ファイル送信 (SMB)]

設定	説明
[ホスト名]	宛先とするコンピューター名 (ホスト名) または IP アドレスを入力します。 - コンピューター名 (ホスト名) の入力例: 「HOME-PC」 - IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 - IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ファイルパス]	[ホスト名] に入力したコンピューターの共有フォルダー名を入力します (255 バイト以内)。一般的には、共有名と呼ばれています。 - 入力例: 「scan」 共有フォルダー内のフォルダーを指定したいときは、フォルダー名の間に「¥」を入力します。 - 入力例: 「scan¥document」
[ユーザー名]	[ファイルパス] に入力したフォルダーのアクセス権限を持つユーザー名を入力します (255 バイト以内)。 入力例: 「public user」
[パスワード]	パスワードを入力します。
[参照]	ファイルを送信したいコンピューターを探して、共有フォルダーを選びます。

[ファイル送信 (WebDAV)]

設定	説明
[ホスト名]	WebDAV サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。 - ホスト名の入力例: 「host.example.com」 - IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 - IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ファイルパス]	[ホスト名] に入力した WebDAV サーバーの保存先フォルダー名を入力します (96 バイト以内)。 - 入力例: 「scan」 WebDAV フォルダー内のフォルダーを指定したいときは、フォルダー名の間に 「/」 を入力します。 - 入力例: 「scan/document」
[ユーザー名]	[ファイルパス] に入力したフォルダーのアクセス権限を持つユーザー名を入力します (ASCII 文字 63 バイト以内)。 入力例: 「public_user」
[パスワード]	パスワードを入力します (ASCII 文字 63 バイト以内)。
[ポート番号]	必要に応じて、ポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は 「80」 です。
[プロキシ]	お使いの環境でプロキシサーバーを利用しているときに選びます。
[SSL 設定]	お使いの環境で SSL を利用しているときに選びます。



参照

[HDD 保存] について詳しくは、6-2 ページをごらんください。

[USB 保存] について詳しくは、7-2 ページをごらんください。

[ファイル送信 (DPWS)] について詳しくは、8-2 ページをごらんください。



関連設定 (管理者向け)

ユーザーに対して、宛先の直接入力に許可するかどうかなを選びます。

設定するには: [設定メニュー] - [管理者設定] - [セキュリティ設定] - [セキュリティ詳細] - [手動宛先入力] (初期値: [許可])

履歴から選ぶ

[履歴から選択] で、スキャン送信または保存した履歴から、宛先を選びます。

履歴は、最新の 5 件を表示します。履歴から複数の宛先を選ぶこともできます。

No.	宛先種類	宛先
最新	☒ E-mail	1
2		2
3		3
4		4
5		5



参考

登録宛先の編集や主電源の OFF/ON を行った場合、履歴の情報は削除されます。

メールアドレスをLDAPサーバーから検索する

LDAPサーバーやWindows ServerのActive Directoryをお使いの場合は、サーバーからメールアドレスを検索して選べます。

- ✓ あらかじめ本機にサーバーの登録が必要です。登録のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編]の2章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。
- ✓ この機能は、E-mail送信モードで利用できます。

1 [登録宛先から] - [LDAP] で、[LDAP 検索] または [LDAP 複合検索] をタップします。

2 キーワードを入力し、[検索実行] をタップします。

→ [LDAP 検索] では、1つのキーワードで検索します。

→ [LDAP 複合検索] では、カテゴリー別のキーワードを組合わせて検索します。

3 検索結果から、宛先を選びます。

→ [登録] をタップすると、検索した宛先を短縮宛先に追加できます。

→ [詳細] をタップすると、検索した宛先の詳細情報を確認できます。

1.4 スキャン送信のオプション設定

1.4.1 カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定

原稿を読み込むカラーモードを選ぶ（〔カラー〕）

表示するには：〔応用設定〕 - 〔基本〕 - 〔カラー〕

原稿を読み込むときのカラーモードを選びます。

設定	説明
〔オートカラー〕	原稿の色に合わせて、自動的に〔フルカラー〕または〔グレースケール〕を選んで読み込みます。
〔フルカラー〕	原稿の色に関わらず、フルカラーで読み込みます。白黒以外の色を使った原稿や、カラー写真を読み込むときに選びます。
〔グレースケール〕	原稿の色に関わらず、グレースケールで読み込みます。白黒写真など、ハーフトーンが多い原稿を読み込むときに選びます。
〔白黒 2 値〕	原稿を、白と黒の中間色を使わずに、白か黒かで読み込みます。線画など、白黒の境がはっきりしている原稿を読み込むときに選びます。

読み込む原稿のサイズを設定する（〔読み込みサイズ〕）

表示するには：〔応用設定〕 - 〔基本〕 - 〔読み込みサイズ〕

読み込む原稿のサイズを選びます。

設定	説明
〔定形サイズ〕	A 系・B 系サイズ、インチ系サイズなど、決まったサイズの原稿を読み込むときに、原稿サイズを選びます。
〔不定形サイズ〕	不定形サイズの原稿を読み込むときに選びます。縦、横それぞれの数値を入力します。

原稿を読み込む解像度を設定する（〔解像度〕）

表示するには：〔応用設定〕 - 〔基本〕 - 〔解像度〕

原稿を読み込むときの解像度を選びます。



参考

より精細に読み込むほど送信する情報量が増え、送信時間が長くなります。E-mail 送信やインターネットファクスなど、送信手段に E-mail を使うときは、データ容量に制限がないかをご確認ください。

読込んだ原稿データを保存するファイル形式を設定する（[ファイル形式]）

表示するには：[応用設定] - [基本] - [ファイル形式]

読込んだ原稿データを保存するファイル形式を選びます。

設定	説明
[ファイル形式]	保存したいファイル形式を、以下から選びます。 ・ [PDF]：ほとんどの OS で表示できるフォーマットで、ファイルにパスワードを設定したり、暗号化したりできます。 ・ [コンパクト PDF]：通常の PDF 形式よりも小さなファイルサイズで保存します。E-mail 送信など、ファイルサイズを小さくしたいときなどにオススメです。 ・ [TIFF]：汎用度の高い画像形式の 1 つです。TIFF は、1 つのファイルに複数ページを持てるマルチページに対応しています。 ・ [JPEG]：デジタルカメラでよく使われているファイルの保存形式で、写真の保存に適したファイル形式です。JPEG は、1 つのファイルに複数ページを保存できません。 ・ [XPS]：Windows Vista から採用されたファイル形式です。
[ページ設定]	原稿が複数ページあるときに、ファイルにするページ単位を選びます。ただし、[ファイル形式] で [JPEG] を選んだときは設定できません。 ・ [ページ一括]：すべてのページを 1 つのファイルに変換します。 ・ [一枚毎]：1 ページごとにファイルを分割して送信する形式にできます。
[PDF 暗号化設定]	ファイル形式として [PDF] または [コンパクト PDF] を選んだときに、PDF のオプション設定ができます。 ・ [暗号化レベル]：PDF の権限を設定する場合に、設定したいセキュリティレベルに合わせて、暗号化レベルを選びます。 ・ [パスワード]：閲覧を制限するためのパスワードを入力します。パスワードを知る特定のユーザーが閲覧できる PDF を作ります。 ・ [文書の権限]：PDF の印刷と編集の権限を細かく設定する場合は、権限パスワードを入力します。 ・ [印刷許可レベル]：PDF の印刷を許可するかどうかを選びます。[暗号化レベル] を [高レベル 1] または [高レベル 2] に設定した場合は、解像度を抑えた印刷だけを許可（[低解像度のみ許可]）できます。 ・ [文書と画像抽出]：PDF からテキストや画像のコピーを許可するかどうかを選びます。 ・ [変更許可レベル]：PDF の変更を許可する内容を選びます。[暗号化レベル] を [高レベル 1] または [高レベル 2] に設定した場合は、より詳細に許可内容を選べます。
[PDF/A]	ファイル形式として [PDF] を選んだときに、PDF/A に準拠した PDF を作成するかどうかを選びます。

原稿の両面を読込む（[片面 / 両面]）

表示するには：[応用設定] - [基本] - [片面 / 両面]

原稿を読込む面を選びます。

設定	説明
[片面]	原稿の片面を読込みます。
[両面]	原稿の両面を読込みます。

ファイル名や E-mail の件名／本文を変更する（〔文書名 / 件名 / 他〕）

表示するには：〔応用設定〕 - 〔基本〕 - 〔文書名 / 件名 / 他〕

この機能は、E-mail 送信モードで利用できます。

読込んだ原稿データのファイル名を変更します。また、E-mail の件名と本文の指定や、発信元のメールアドレス（From アドレス）の変更ができます。

設定	説明
〔文書名〕	必要に応じて、読込んだ原稿データのファイル名を変更します（半角 30 文字／全角 15 文字以内）。
〔件名〕	必要に応じて、E-mail の件名を変更します（半角 64 文字／全角 32 文字以内）。 Web Connection で、件名の定型文を登録している場合は、登録している件名から選ぶこともできます。 初期設定では「Message from（装置名）」が表示されます。
〔From〕	必要に応じて、発信元のメールアドレスを変更します。
〔本文〕	必要に応じて、E-mail の本文を入力します（半角 256 文字／全角 128 文字以内）。 Web Connection で、本文の定型文を登録している場合は、登録している本文から選ぶこともできます。 初期設定では空白となります。



関連設定

E-mail の件名と本文は、**Web Connection** でのみ登録できます。詳しくは、〔ユーザズガイド 応用機能編〕の 1 章「Web Connection を使う」をごらんください。

ファイル名を変更する（〔文書名〕）

表示するには：〔応用設定〕 - 〔基本〕 - 〔文書名〕

この機能は、ファイル送信モードで利用できます。

必要に応じて、読込んだ原稿データのファイル名を変更します（半角 30 文字／全角 15 文字以内）。

1.4.2 原稿の読み込み方法の設定

原稿をセットした方向を指定する（〔原稿セット方向〕）

表示するには：〔応用設定〕 - 〔原稿〕 - 〔原稿設定〕 - 〔原稿セット方向〕

セットした原稿の向きを指定します。

原稿のとじしろを指定する（〔原稿のとじしろ〕）

表示するには：〔応用設定〕 - 〔原稿〕 - 〔原稿設定〕 - 〔原稿のとじしろ〕

両面の原稿を読み込むときに、とじしろの位置が逆にならないよう、原稿のとじしろ位置を選びます。

設定	説明
〔自動〕	原稿のとじしろが自動で設定されます。原稿の長辺が 297 mm 以下の場合、用紙の長辺にとじしろを設定します。原稿の長辺が 297 mm を超える場合、用紙の短辺にとじしろを設定します。
〔左開き／とじ〕	原稿の左側にとじしろがあるときに選びます。
〔上開き／とじ〕	原稿の上側にとじしろがあるときに選びます。

大量の原稿を数回に分けて読む（〔連続読み〕）

原稿の枚数が多く、1 度のセットで ADF に載せきれない場合でも、原稿を数回に分けて読んで、1 つのジョブとして扱えます。

〔連続読み〕は、ADF と原稿ガラスとを交互に使い分けて、原稿を読み込むこともできます。

1 原稿をセットします。

重要

原稿給紙トレイに 1 度にセットする原稿は 50 枚以内とし、なおかつ ▼ マークを超えてセットしないでください。原稿づまりや原稿の破損、ADF の故障の原因になります。

2 〔応用設定〕 - 〔原稿〕 - 〔連続読み〕 をタップして、〔ON〕 に設定します。

3 スタートを押します。

原稿が読み込まれます。

4 次の原稿をセットして、スタートを押します。

→ 必要に応じて〔設定変更〕をタップし、新しく読む原稿に合わせて、オプション設定を変更します。

5 すべての原稿を読み込むまで、手順 4 の操作を続けます。

6 すべての原稿を読み込み終わったら〔終了〕をタップします。

送信が開始されます。

1.4.3 画質／濃度の調整

原稿の内容に適した画質を選ぶ（〔原稿画質〕）

表示するには：〔応用設定〕 - 〔画質 / 濃度〕 - 〔原稿画質〕

原稿の記載内容に適した設定を選び、最適な画質で読みます。

設定	説明
〔文字〕	文字が多い原稿を、最適な画質で読みます。 文字のエッジをシャープに再現して、読みやすい画像にします。
〔文字 / 写真〕	文字と写真とで構成された原稿を、最適な画質で読みます。 文字のエッジはシャープに再現して、写真は滑らかに再現します。
〔写真〕	写真だけで構成された原稿を、最適な画質で読みます。

原稿を読み込む濃度を調整する（〔濃度〕）

表示するには：〔応用設定〕 - 〔画質 / 濃度〕 - 〔濃度〕

原稿に合わせて濃度を調整して読みます。

読み込む原稿の下地の濃度を調整する（〔下地調整〕）

表示するには：〔応用設定〕 - 〔画質 / 濃度〕 - 〔下地調整〕

新聞紙や再生紙でできた原稿など、下地に色が付いている原稿の下地の濃度を調整します。

文字などの境界をくっきりさせる（〔シャープネス〕）

表示するには：〔応用設定〕 - 〔応用〕 - 〔シャープネス〕

画像のエッジ部分を強調して、読みやすくします。画像の、ガタガタした輪郭を滑らかにしたり、ぼやけた輪郭をくっきりさせたりします。

1.4.4 その他のオプション設定

E-mail を暗号化する（[メールの暗号化]）

表示するには：[応用設定] - [応用] - [メールの暗号化]

この機能は、E-mail 送信モードで利用できます。

S/MIME を使う場合に、本機から送信する E-mail を暗号化します。詳しくは、2-9 ページをごらんください。



参照

S/MIME が有効に設定されている場合に表示されます。S/MIME は、**Web Connection** でのみ設定できます。詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 1 章「Web Connection を使う」をごらんください。

E-mail にデジタル署名を付加する（[デジタル署名]）

表示するには：[応用設定] - [応用] - [デジタル署名]

この機能は、E-mail 送信モードで利用できます。

S/MIME を使う場合に、本機から送信する E-mail にデジタル署名を付加します。詳しくは、2-9 ページをごらんください。



参照

S/MIME が有効に設定されている場合に表示されます。S/MIME は、**Web Connection** でのみ設定できます。詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 1 章「Web Connection を使う」をごらんください。

原稿データの保存先を E-mail で知らせる（[URL 通知先設定]）

表示するには：[応用設定] - [応用] - [URL 通知先設定]

この機能は、ファイル送信モードで利用できます。

SMB 送信、FTP 送信、WebDAV 送信、HDD 保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送ります。詳しくは、3-21 ページをごらんください。

1.4.5 現在の設定内容を確認する

[設定確認] をタップすると、指定した宛先の一覧が表示されます。送信前に、指定した宛先や設定内容を再確認できます。

設定	説明
[同報宛先]	指定した宛先の一覧を表示します。 ・ [宛先詳細] をタップすると、選んだ宛先の詳細情報を確認できます。 ・ [クリア] をタップすると、選んだ宛先を削除できます。
[設定詳細]	送信設定の内容を表示します。



E-mail に添付して送信する
(E-mail 送信)

2 E-mail に添付して送信する (E-mail 送信)

2.1 E-mail 送信機能について

E-mail 送信は、本機で読込んだ原稿データを、コンピュータで扱えるファイルに変換して、E-mail の添付ファイルとして任意のメールアドレスに送信する機能です。

普段、E-mail を使うような操作でファイルを送信できるため、操作も手軽で、導入も容易です。

S/MIME や SSL/TLS などの暗号化や、POP before SMTP 認証などにも対応しており、セキュリティへの対策もできます。また、LDAP サーバーや Windows Server の Active Directory でユーザーを管理している場合は、サーバーからメールアドレスを検索することもできます。

2.2 E-mail 送信の準備（管理者向け）

2.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
- ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。



E-mail 環境を準備する

- E-mail 送信機能を有効にする
- メールサーバー（SMTP）を登録する
- 本体のメールアドレスを登録する
 - 送信元のアドレス（From アドレス）になります。



お使いの環境に合わせて設定する

- よく送信するメールアドレスを登録する
 - 送信のたびに宛先入力する手間を省けます。
- 宛先の指定に LDAP サーバーを使う
 - LDAP サーバーや Active Directory をお使いの場合に、サーバーで宛先検索ができます。
- 送信する E-mail の件名と本文を登録する
 - E-mail の件名と本文を定型として登録しておけば、送信時に選べます。
- SMTP 認証を使う
 - 本機は SMTP 認証に対応しています。お使いの環境で SMTP 認証を導入している場合に設定します。
- POP before SMTP 認証を使う
 - 本機は POP before SMTP 認証に対応しています。お使いの環境で POP before SMTP 認証を導入している場合に設定します。
- SSL/TLS で通信する
 - 本機は SMTP over SSL と Start TLS に対応しています。お使いの環境でメールサーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。
- S/MIME を使う
 - 本機は E-mail の盗聴や送信者のなりすましなどのリスクを回避する、S/MIME に対応しています。お使いの環境で S/MIME を導入している場合に設定します。



準備完了

2.2.2 お使いになるために必要な作業

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。

ネットワークの設定を確認する

設定情報リストを印刷し、本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。

設定情報リストは、[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [プリンター設定] - [レポート出力] - [設定情報リスト] から印刷します。



参照

IP アドレスが割当てられていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、[すぐに使える簡単設定ガイド] の 4 章「本機の初期設定」をごらんください。

E-mail 送信の使用環境を設定する

E-mail 送信機能を有効にします。また、E-mail 送信に使うメールサーバーと、本体のメールアドレスを登録します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

2.2.3 必要に応じて行う作業

よく送信する宛先を登録する

よく送信するメールアドレスは、あらかじめ本機に宛先として登録することで、送信のたびに入力する手間が省けます。

登録のしかたについて詳しくは、10-2 ページをごらんください。

宛先の指定に LDAP サーバーを使う

ユーザー管理に LDAP サーバーや Active Directory をお使いの場合は、サーバーを使ってメールアドレスの検索や指定ができます。宛先の指定にサーバーを使う場合は、お使いのサーバーを本機に登録します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。



参照

LDAP サーバーを使った検索のしかたについて詳しくは、1-12 ページをごらんください。

送信する E-mail の件名と本文を登録する

E-mail には、初期値として設定されている件名と本文が自動で挿入されます。あらかじめ E-mail の件名と本文の定型文を複数登録しておくことで、送信先に応じて使い分けることができます。

件名と本文は、**Web Connection** でのみ登録できます。登録のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 1 章「Web Connection を使う」をごらんください。

SMTP 認証を使う

本機は SMTP 認証に対応しています。お使いの環境で SMTP 認証を導入している場合に設定します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

POP before SMTP 認証を使う

本機は POP before SMTP 認証に対応しています。お使いの環境で POP before SMTP 認証を導入している場合に設定します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

SSL/TLS で通信する

本機は SMTP over SSL と Start TLS に対応しています。お使いの環境でメールサーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

S/MIME を使う

本機は、E-mail の盗聴や送信者のなりすましなどのリスクを回避する、S/MIME に対応しています。お使いの環境で S/MIME を導入している場合に設定します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

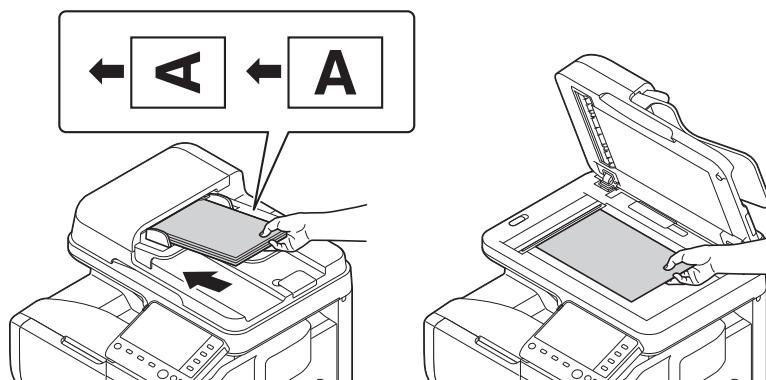


参照

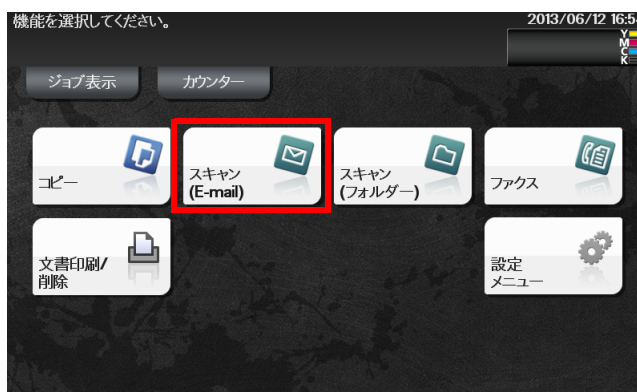
S/MIME を使った送信のしかたについて詳しくは、2-9 ページをごらんください。

2.3 送信のしかた

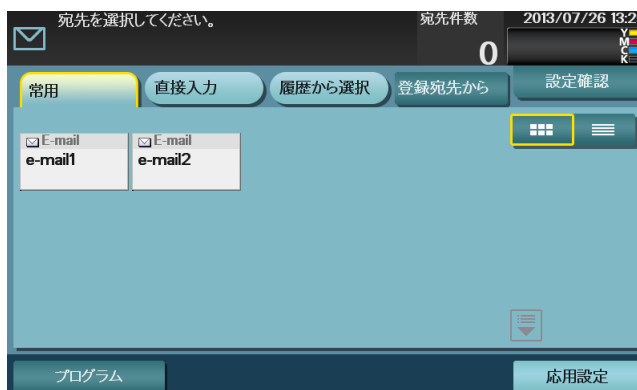
- 1 原稿をセットします。



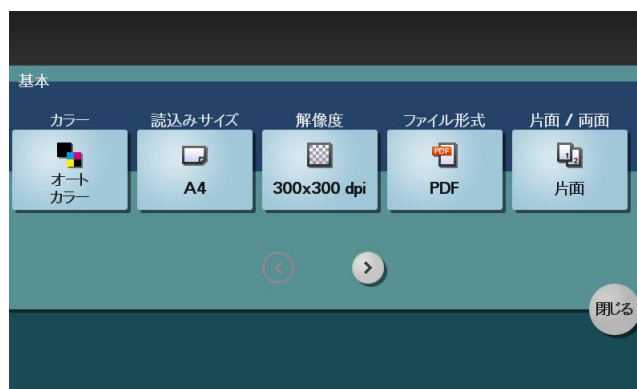
- 2 「スキャン (E-mail)」をタップします。



- 3 送信先のメールアドレスを指定します。
- 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-8 ページをごらんください。
 - 複数の宛先を指定することもできます。



4 「応用設定」をタップし、スキャン送信のオプション設定をします。



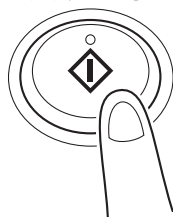
- 本機で原稿を読み込む前に、読み込む原稿のサイズを設定する必要があります。原稿サイズを正しく設定しないと、画像が欠ける場合があります。原稿サイズの設定については、1-13 ページをご覧ください。
- オプション設定について詳しくは、以下の各項目をご覧ください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-13 ページ
原稿の読み込み方法を設定したい	1-16 ページ
原稿の内容に応じて画質や濃度を調整したい	1-17 ページ

5 スタートを押します。

- 必要に応じて、送信前に「設定確認」をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
- 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。
- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読みみを停止します。原稿の読みみを中止したいときは、ジョブ画面から停止中のジョブを削除します。

スタート



送信が開始されます。

参照

よく送信する宛先は、プログラムに登録すると便利です。プログラムについて詳しくは、1-5 ページをご覧ください。

関連設定

必要に応じて、E-mail 送信画面の初期表示を変更できます。
設定するには：[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [画面カスタマイズ設定] - [ファクス / スキャン設定] - [スキャン (E-mail) 基本画面表示] (初期値：[常用])

2.4 応用機能の紹介

2.4.1 自分宛てに送信する（Scan to Me）

Scan to Me について

Scan to Me 機能は、本機で読込んだ原稿データを、自分のメールアドレスに、簡単に送信できる機能です。

ユーザー認証を導入している本機にログインすると〔常用〕画面に〔Me〕キーが表示されます。〔Me〕キーには、ログインしたユーザー用のメールアドレスが登録されています。〔Me〕キーを選ぶと、自分のメールアドレスを宛先とした E-mail 送信ができます。

自分のメールアドレスを短縮宛先に登録する必要がなく、便利です。

お使いになるために必要な作業（管理者向け）

ユーザーの登録情報にメールアドレスを登録します。

設定のしかたについて詳しくは、〔ユーザーズガイド 応用機能編〕の 2 章「本機の使用環境を設定する」をご覧ください。

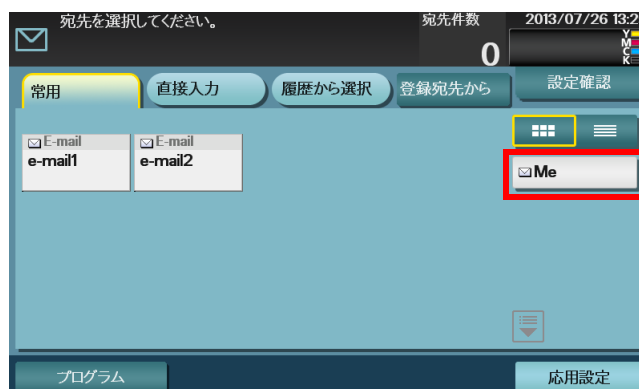


参考

認証サーバーとして Active Directory をお使いの場合は、Active Directory に、ユーザーのメールアドレスを登録する必要があります。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 ユーザー情報を入力して、ログインします。
- 3 〔スキャン（E-mail）〕をタップします。
- 4 〔Me〕を選びます。



- 5 必要に応じて、スキャン送信のオプション設定をします。
- 6 スタートを押します。
 - 必要に応じて、送信前に〔設定確認〕をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 - 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。
 - 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止します。原稿の読み込みを中止したいときは、ジョブ画面から停止中のジョブを削除します。送信が開始されます。

2.4.2 E-mail の暗号化とデジタル署名の付加をする (S/MIME)

S/MIME について

S/MIME は、E-mail の暗号化方式の 1 つです。S/MIME を使うことで、本機から送信する E-mail を暗号化して、送信する過程での第三者による盗聴を防ぎます。また、E-mail にデジタル署名を付加することで、送信元の保証やデータが改ざんされていないことを証明します。

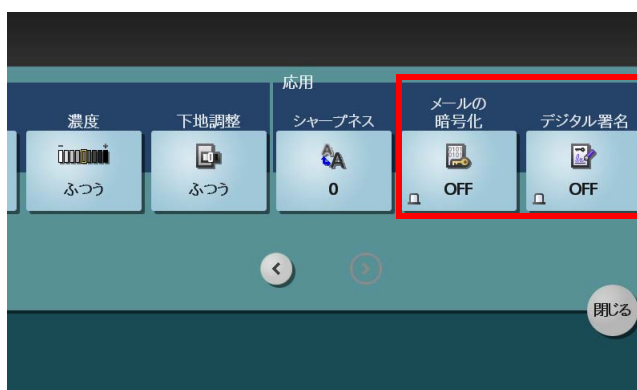
お使いになるために必要な作業 (管理者向け)

S/MIME を有効にします。E-mail を暗号化する場合は、暗号化に使う証明書を E-mail 宛先に登録します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 [スキャン (E-mail)] をタップします。
- 3 [応用設定] - [応用] - [メールの暗号化] と [デジタル署名] を設定します。
 - E-mail を暗号化するときは、[メールの暗号化] を [ON] に設定します。
 - デジタル署名を付加するときは、[デジタル署名] を [ON] に設定します。
 - [デジタル署名] で、[ON] または [OFF] のいずれかの状態から変更できない場合は、管理者によって常に署名するかしないかが設定されています。



- 4 送信先の E-mail 宛先を指定します。
 - E-mail を暗号化するときは、証明書が登録されている E-mail 宛先を選びます。
 - E-mail は 10 件まで同報送信できます。
 - 5 スタートを押します。
 - 必要に応じて、送信前に [設定確認] をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 - 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、[リセット] を押します。
 - 原稿の読み込み中に [ストップ] を押すと、読み込みを停止します。原稿の読み込みを中止したいときは、ジョブ画面から停止中のジョブを削除します。
- 送信が開始されます。

3

コンピューターの共有フォル
ダーに送信する（SMB 送信）

3 コンピューターの共有フォルダーに送信する（SMB 送信）

3.1 SMB 送信機能について

SMB 送信は、本機で読込んだ原稿データを、コンピューターで扱えるファイルに変換して、コンピューターやサーバーの共有フォルダーへ送信する機能です。自分のコンピューターはもちろん、普段からファイルの受渡しに使っているファイルサーバーへ送信して共有することもできます。

3.2 SMB 送信の準備

3.2.1 準備の流れ

送信先のコンピューターを準備する

- コンピューター名とユーザー名を確認する
 - 送信先のコンピューター名とアクセスできるユーザー名を確認します。
 - 共有フォルダーを作成する
 - 送信先のフォルダーを作成して、共有を開始します。
-



本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
 - ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。
-



SMB 送信の使用環境を準備する

- SMB 送信機能を有効にする
 - 通常は、初期設定の状態でお使いいただけます。
-



お使いの環境に合わせて設定する

- よく送信する宛先を登録する
 - 送信のたびに宛先入力する手間を省けます。
 - WINS サーバーを使う
 - ネットワーク上の機器との通信に WINS (Windows Internet Name Service) をお使いの場合は、WINS サーバーを登録します。
 - ダイレクトホスティング SMB サービスを使う
 - ネットワーク上の機器との通信にダイレクトホスティング SMB サービスをお使いの場合は、ダイレクトホスティング SMB サービスを有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。
 - LLMNR を使う
 - ネットワーク上の機器との通信に LLMNR (Link-local Multicast Name Resolution) をお使いの場合は、LLMNR を有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。
 - DFS を使う
 - お使いの環境で DFS (Distributed File System) を導入している場合に設定します (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。
-



準備完了

3.2.2 コンピューター側：お使いになるために必要な作業

Windows 7/8 をお使いの場合

本機で読込んだ原稿データを、自分のコンピューターへ送信するための準備をします。

はじめに、コンピューターの名前とログインしているユーザー名を確認します。

✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。

- 1 スタートメニューから [コンピューター] - [システムのプロパティ] をクリックします。
 - Windows 8 をお使いの場合は、スタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] - [コンピューター] をクリックします。ツールバーから [コンピューター] - [システムのプロパティ] をクリックします。
- 2 [コンピューター名] を確認します。
 - コンピューター名は、宛先の指定で必要です。コンピューター名をメモしておいてください。



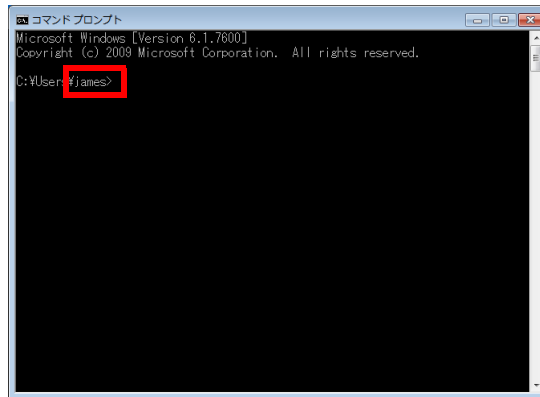
→ ドメインユーザーの場合、ドメイン名は、ユーザー名とともに宛先の指定が必要です。ドメイン名をメモしておいてください。



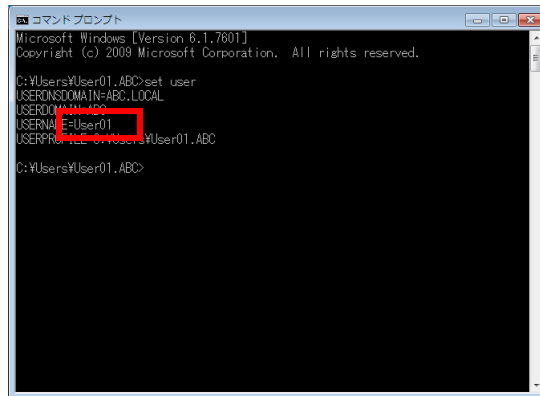
メモしたら、ウィンドウを閉じます。

- 3 スタートメニューから [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンド プロンプト] をクリックします。
 - Windows 8 をお使いの場合は、スタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] - [コマンドプロンプト] をクリックします。

- 4 コンピューターにログインしているユーザー名を確認します。
- ユーザー名は、フォルダーの共有設定と宛先の指定で必要です。ユーザー名をメモしておいてください。



- ドメインユーザーの場合、「set user」を入力し、ユーザー名を確認します。

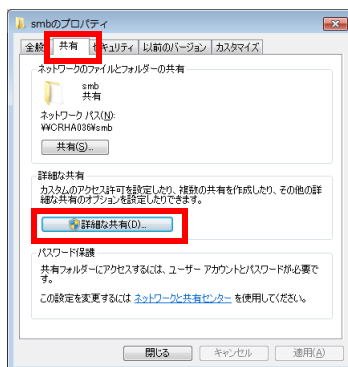


ユーザー名をメモしたら、ウィンドウを閉じます。

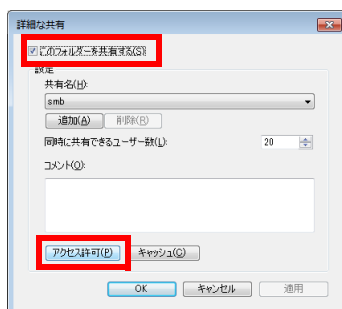
次に、読込んだ原稿データを送信するフォルダーを作成して、共有を開始します。

- 5 スタートメニューから [コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークと共有センター] - [共有の詳細設定の変更] をクリックします。
- Windows 8 をお使いの場合は、スタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] - [コントロールパネル] - [ネットワークと共有センター] - [共有の詳細設定の変更] をクリックします。
- 6 [共有の詳細設定] 画面で [ファイルとプリンターの共有を有効にする] をクリックします。 [変更の保存] をクリックして、ウィンドウを閉じます。
- 7 任意の場所に新しいフォルダーを作り、名前を付けます。
- フォルダー名は、宛先の指定で必要です。フォルダー名はメモしておいてください。
- フォルダーの名前は、半角英数字をお使いください。
- 8 フォルダーを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

- 9 「共有」タブをクリックして、「詳細な共有」をクリックします。

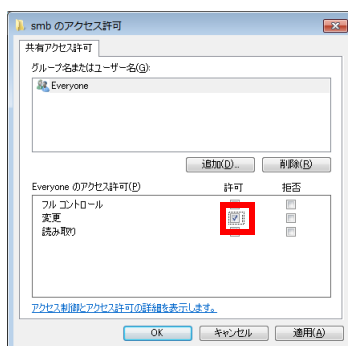


- 10 「このフォルダーを共有する」にチェックをつけて、「アクセス許可」をクリックします。



- 11 「グループ名またはユーザー名」で「Everyone」をクリックします。

- 12 「変更」を許可するチェックをつけて、「OK」をクリックします。



- 13 「OK」や「閉じる」をクリックして、各画面を閉じます。

以上で、コンピューター側の設定の完了です。ここでメモしたコンピューター名、ユーザー名、フォルダー名は、宛先の指定で必要です。

Windows Vista をお使いの場合

本機で読込んだ原稿データを、自分のコンピュータへ送信するための準備をします。

はじめに、コンピュータの名前とログインしているユーザー名を確認します。

✓ この作業を行うには、コンピュータの管理者権限が必要です。

1 スタートメニューから [コンピュータ] - [システムのプロパティ] をクリックします。

2 [コンピュータ名] を確認します。

→ コンピュータ名は、宛先の指定で必要です。コンピュータ名をメモしておいてください。



→ ドメインユーザーの場合、ドメイン名は、ユーザー名とともに宛先の指定で必要です。ドメイン名をメモしておいてください。

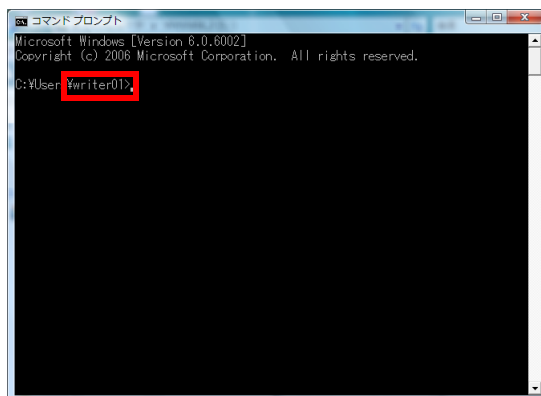


メモしたら、ウィンドウを閉じます。

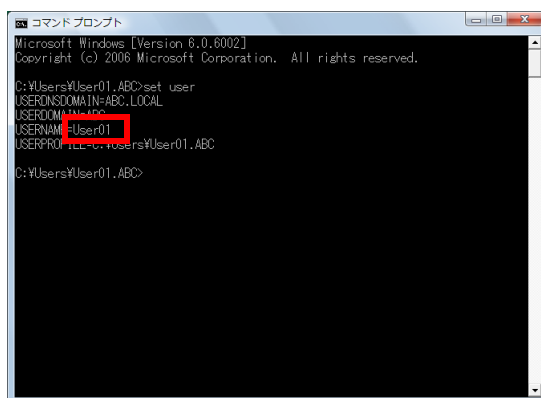
3 スタートメニューから [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンド プロンプト] をクリックします。

4 コンピューターにログインしているユーザー名を確認します。

→ ユーザー名は、フォルダーの共有設定と宛先の指定で必要です。ユーザー名をメモしておいてください。



→ ドメインユーザーの場合、「set user」を入力し、ユーザー名を確認します。



ユーザー名をメモしたら、ウィンドウを閉じます。

次に、読込んだ原稿データを送信するフォルダーを作成して、共有を開始します。

5 スタートメニューから [コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークと共有センター] をクリックします。

6 [共有と探索] の [ファイル共有] で、[ファイル共有を有効にする] をクリックします。 [適用] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

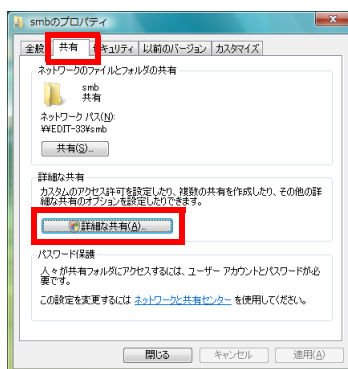
7 任意の場所に新しいフォルダーを作り、名前を付けます。

→ フォルダー名は、宛先の指定が必要です。フォルダー名はメモしておいてください。

→ フォルダーの名前は、半角英数字をお使いください。

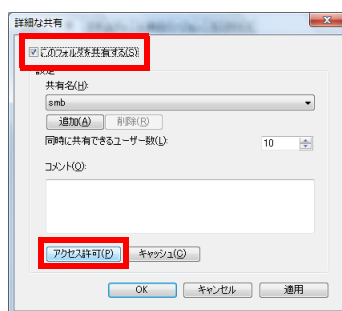
8 フォルダーを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

- 9 「共有」タブをクリックして、「詳細な共有」をクリックします。



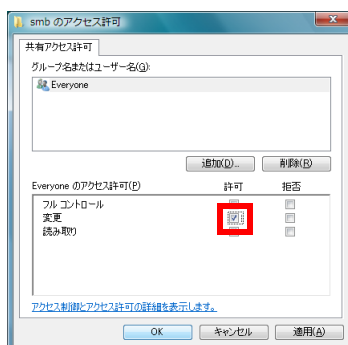
→ ファイル共有の開始を再確認する画面が表示されたときは、「続行」をクリックします。

- 10 「このフォルダを共有する」にチェックをつけて、「アクセス許可」をクリックします。



- 11 「グループ名またはユーザー名」で「Everyone」をクリックします。

- 12 「変更」を許可するチェックをつけて、「OK」をクリックします。



- 13 「OK」や「閉じる」をクリックして、各画面を閉じます。

以上で、コンピューター側の設定の完了です。ここでメモしたコンピューター名、ユーザー名、フォルダー名は、宛先の指定が必要です。

Windows XP をお使いの場合

本機で読込んだ原稿データを、自分のコンピュータへ送信するための準備をします。

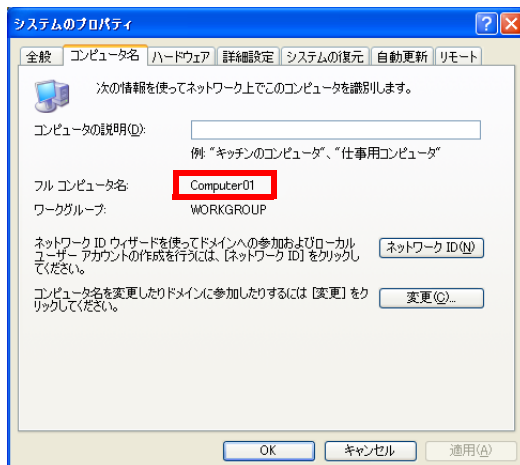
はじめに、コンピュータの名前とログインしているユーザー名を確認します。

✓ この作業を行うには、コンピュータの管理者権限が必要です。

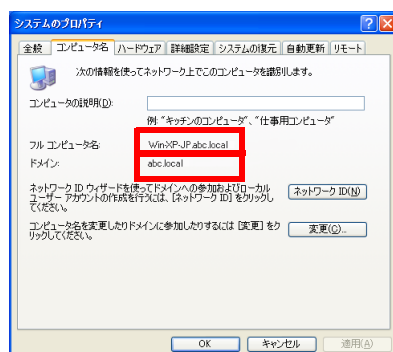
1 スタートメニューから「コンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。

2 「コンピュータ名」タブをクリックして、「フル コンピュータ名」を確認します。

→ コンピュータ名は、宛先の指定が必要です。コンピュータ名をメモしておいてください。



→ ドメインユーザーの場合、ドメイン名は、ユーザー名とともに宛先の指定が必要です。ドメイン名をメモしておいてください。

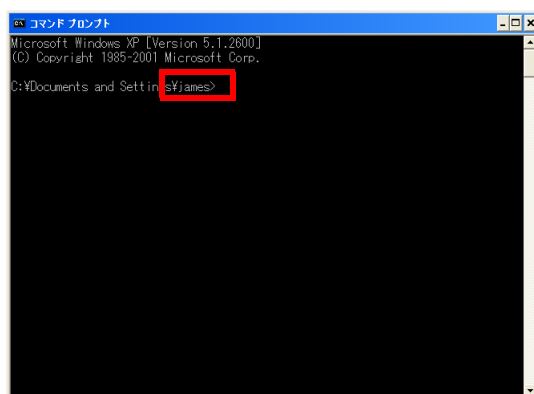


メモしたら、「キャンセル」をクリックします。

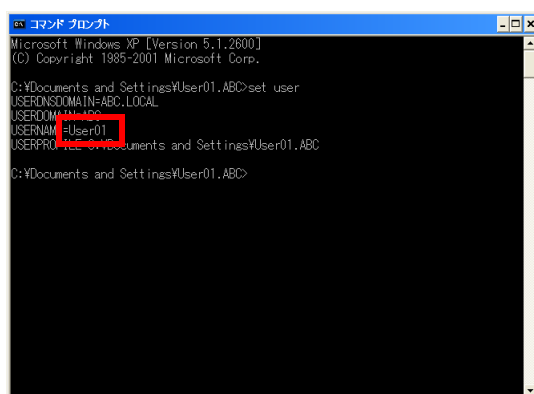
3 スタートメニューから「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「コマンド プロンプト」をクリックします。

4 コンピューターにログインしているユーザ名を確認します。

→ ユーザー名は、フォルダーの共有設定と宛先の指定が必要です。ユーザー名をメモしておいてください。



→ ドメインユーザーの場合、「set user」を入力し、ユーザー名を確認します。



ユーザー名をメモしたら、ウィンドウを閉じます。

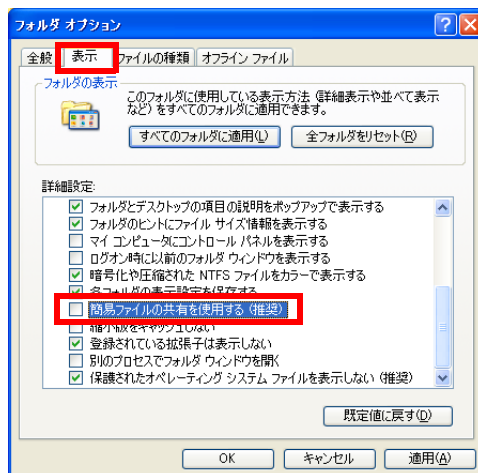
次に、読込んだ原稿データを送信するフォルダーを作成して、共有を開始します。

5 任意の場所に新しいフォルダーを作り、名前を付けます。

→ フォルダー名は、宛先の指定が必要です。フォルダー名はメモしておいてください。
→ フォルダーの名前は、半角英数字をお使いください。

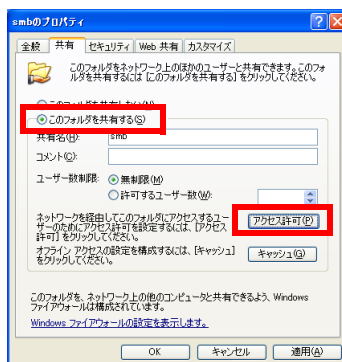
6 フォルダーをダブルクリックして、[ツール] - [フォルダオプション] を選びます。

- 7 [表示] タブをクリックして、[簡易ファイルの共有を使用する (推奨)] のチェックをはずします。

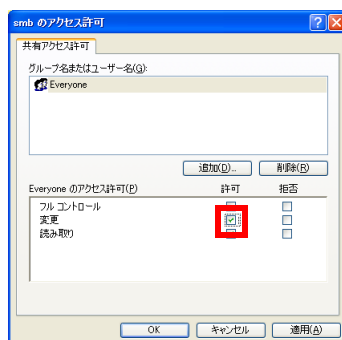


[OK] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

- 8 閉じたフォルダーを右クリックして、[共有とセキュリティ] をクリックします。
- 9 [このフォルダーを共有する] をクリックして、[アクセス許可] をクリックします。
→ [共有名] は変更しないください。



- 10 [グループ名またはユーザー名] で [Everyone] をクリックします。
- 11 [変更] を許可するチェックをつけて、[OK] をクリックします。



- 12 [OK] をクリックして、画面を閉じます。

以上で、コンピューター側の設定の完了です。ここでメモしたコンピューター名、ユーザー名、フォルダー名は、宛先の指定で必要になります。

Mac OS X 10.5/10.6/10.7/10.8 をお使いの場合

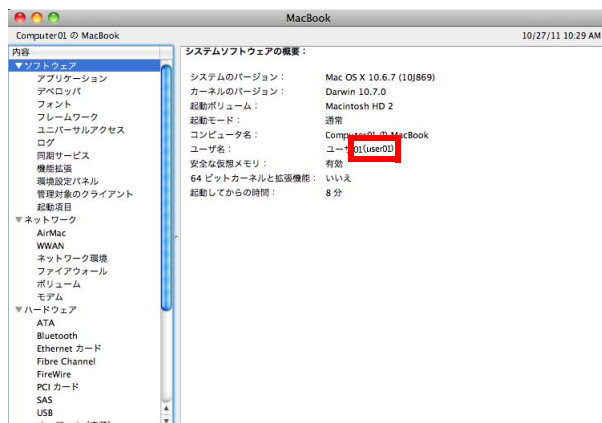
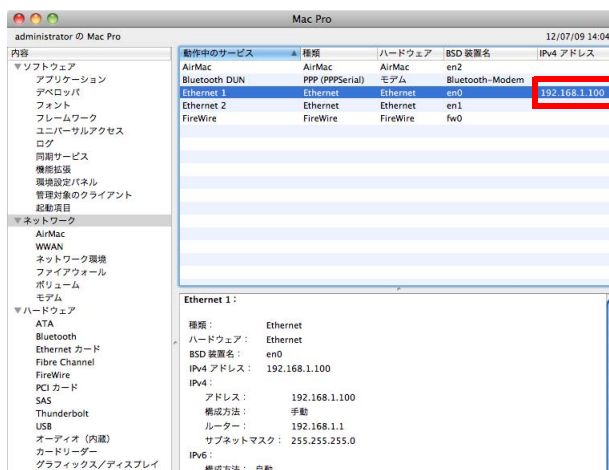
本機で読込んだ原稿データを、自分のコンピューターへ送信するための準備をします。

はじめに、読込んだ原稿データを受取る、専用の共有フォルダーを作成します。次に IP アドレスとユーザー名を確認して、共有を開始します。

ここでは、Mac OS X 10.6 を例に説明します。

✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。

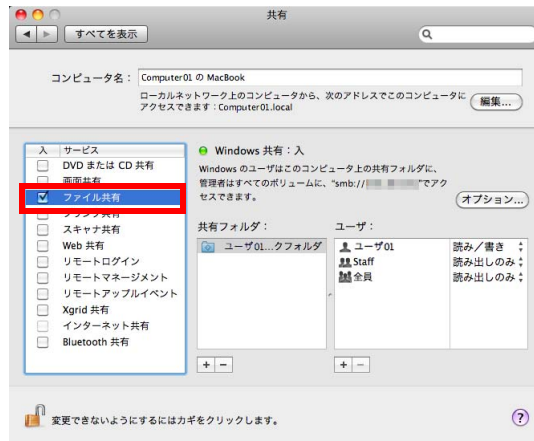
- 1 任意の場所に新しいフォルダーを作り、名前を付けます。
 - フォルダー名は、宛先の指定が必要です。フォルダー名はメモしておいてください。
 - フォルダーの名前は、半角英数字をお使いください。
- 2 アップルメニューから [この Mac について] を選びます。
[この Mac について] の画面が表示されます。
- 3 [詳しい情報 ...] をクリックします。
 - Mac OS X 10.7/10.8 をお使いの場合は、[詳しい情報 ...] をクリックしたあと、[システムレポート ...] をクリックします。
- 4 IP アドレスとログインしているユーザー名を確認します。
 - IP アドレスとユーザー名は、フォルダーの共有設定と宛先の指定が必要です。どちらもメモしておいてください。



IP アドレスとユーザー名をメモしたら、ウィンドウを閉じます。

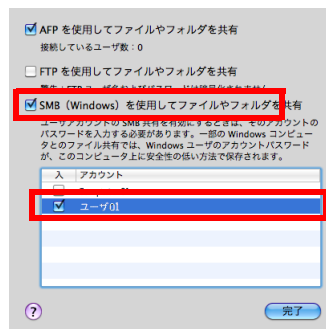
- 5 アップルメニューから [システム環境設定 ...] を選びます。
- 6 [システム環境設定 ...] 画面で [共有] をクリックします。

7 「[ファイル共有]」にチェックをつけます。



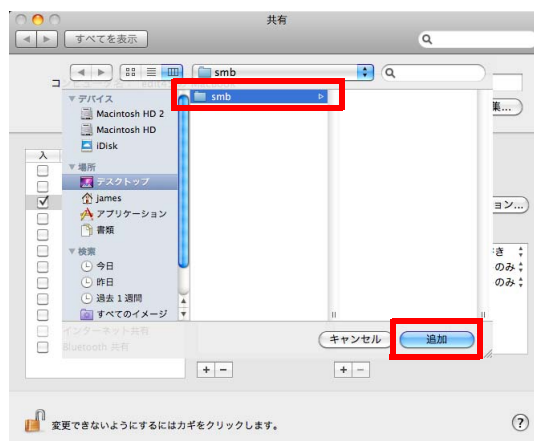
8 「[オプション]」をクリックして、「[SMB (Windows)]を使用してファイルやフォルダを共有」にチェックをつけてから、ログインしているユーザー名（表示名）にチェックをつけます。

→ 「[認証]」画面が表示されたら、ログインしているユーザーのパスワードを入力して、「[OK]」をクリックします。



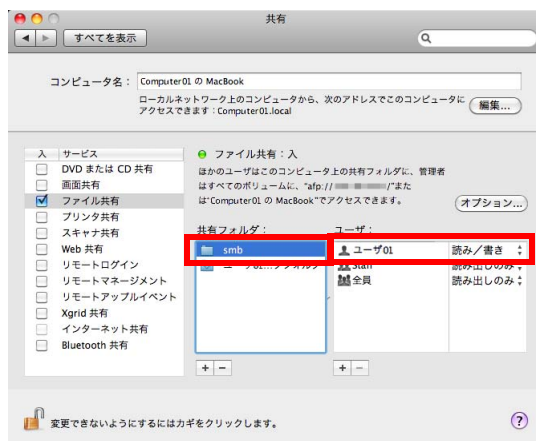
「[完了]」をクリックして、ウィンドウを閉じます。

9 「+」をクリックして表示されたウィンドウで、作成したフォルダを選んでから、「[追加]」をクリックします。



10 作成したフォルダーのユーザー名とアクセス権を確認します。

→ 冒頭でメモしたユーザー名が表示されていて、アクセス権が「読み / 書き」になっていることを確認します。



以上で、コンピューター側の設定の完了です。ここでメモした IP アドレス、ユーザー名、フォルダー名は、宛先の指定で必要になります。

3.2.3 本機側：お使いになるために必要な作業（管理者向け）

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。

ネットワークの設定を確認する

設定情報リストを印刷し、本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。

設定情報リストは、[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [プリンター設定] - [レポート出力] - [設定情報リスト] から印刷します。



参照

IP アドレスが割当てられていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、[すぐに使える簡単設定ガイド] の 4 章「本機の初期設定」をごらんください。

SMB 送信の使用環境を設定する

SMB 送信機能を有効にします（通常は、初期設定の状態でお使いいただけます）。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。



参考

Mac OS X 10.7/10.8 をお使いの場合は、次の設定が必要です。

- [SMB クライアント設定] の [認証] を [NTLM v1/v2] に設定する
- ダイレクトホスティング SMB サービスを有効にする
- 本機とコンピューターの日時（タイムゾーンを含む）を合わせる

3.2.4 必要に応じて行う作業

よく送信する宛先を登録する

よく送信するコンピューターやサーバーは、あらかじめ本機に宛先として登録することで、送信のたびに入力する手間が省けます。

登録のしかたについて詳しくは、10-2 ページをごらんください。

WINS サーバーを使う

ネットワーク上の機器との通信に WINS (Windows Internet Name Service) をお使いの場合は、WINS サーバーを登録します。

登録のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

ダイレクトホスティング SMB サービスを使う

ネットワーク上の機器との通信にダイレクトホスティング SMB サービスをお使いの場合は、ダイレクトホスティング SMB サービスを有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。

IP アドレス (IPv4/IPv6) またはホスト名で、通信先を指定できます。IPv6 環境でお使いの場合は、必ず有効にする必要があります。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

LLMNR を使う

ネットワーク上の機器との通信に LLMNR (Link-local Multicast Name Resolution) をお使いの場合は、LLMNR を有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。

LLMNR は、DNS サーバーを持たないローカルネットワーク環境で、ネットワーク上の機器の名前を解決するためのプロトコルです。Windows Vista 以降で対応しています。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

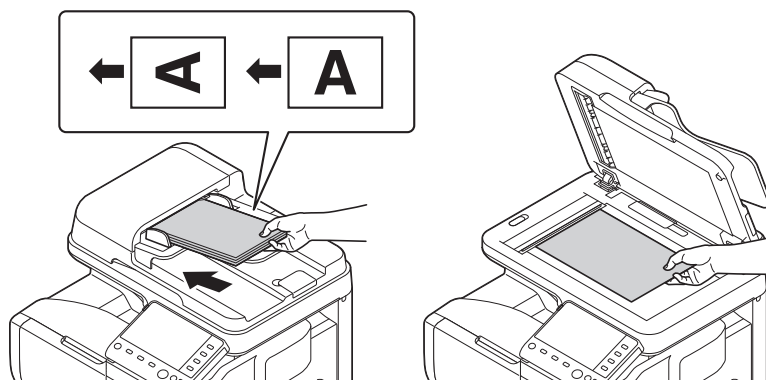
DFS 環境で使う

お使いの環境で DFS (Distributed File System) を導入している場合は、DFS を有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。

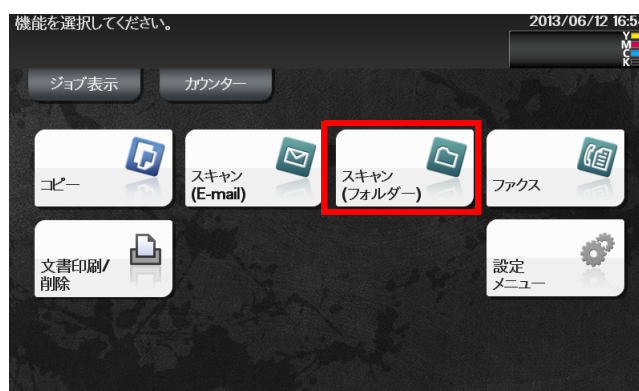
設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

3.3 送信のしかた

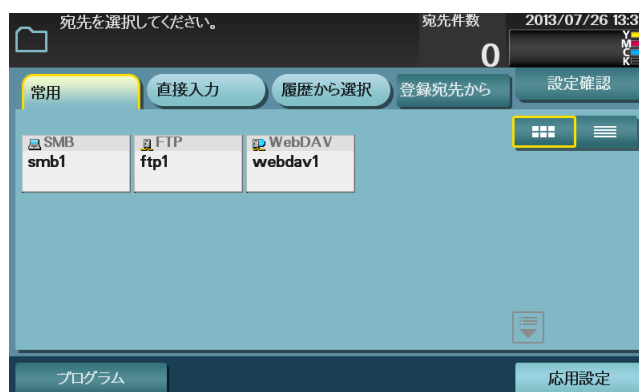
- 1 原稿をセットします。



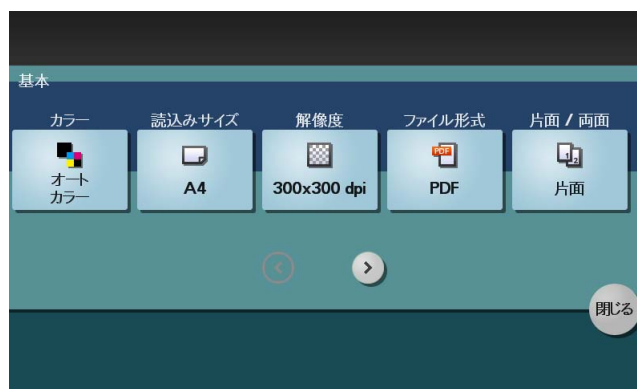
- 2 「スキャン（フォルダー）」をタップします。



- 3 送信先のコンピューター名やユーザー名、フォルダー名を指定します。
- 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-8 ページをごらんください。
 - 複数の宛先を指定することで、FTP 送信、SMB 送信などが同時に実行できます。



4 「応用設定」をタップし、スキャン送信のオプション設定をします。



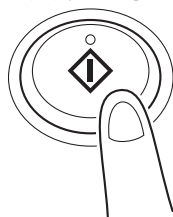
- 本機で原稿を読み込む前に、読み込む原稿のサイズを設定する必要があります。原稿サイズを正しく設定しないと、画像が欠ける場合があります。原稿サイズの設定については、1-13 ページをご覧ください。
- オプション設定について詳しくは、以下の各項目をご覧ください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-13 ページ
原稿の読み込み方法を設定したい	1-16 ページ
原稿の内容に応じて画質や濃度を調整したい	1-17 ページ

5 スタートを押します。

- 必要に応じて、送信前に「設定確認」をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
- 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。
- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読みみを停止します。原稿の読みみを中止したいときは、ジョブ画面から停止中のジョブを削除します。

スタート



送信が開始されます。

参照

よく送信する宛先は、プログラムに登録すると便利です。プログラムについて詳しくは、1-5 ページをご覧ください。

関連設定

必要に応じて、ファイル送信画面の初期表示を変更できます。
 設定するには：[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [画面カスタマイズ設定] - [ファクス / スキャン設定] - [スキャン（フォルダー）基本画面表示]（初期値：[常用]）

3.4 応用機能の紹介

3.4.1 自分のコンピューターに送信する（Scan to Home）

Scan to Home について

Scan to Home 機能は、本機で読込んだ原稿データを、サーバー上の共有フォルダーや自分のコンピューターの共有フォルダーに簡単に送信できる機能です。

本機でユーザー認証を導入し、認証サーバーとして Active Directory をお使いの場合、本機にログインすると、[常用] 画面に [Home] キーを表示します。

読込んだ原稿データを、サーバー上の共有フォルダーや自分のコンピューターの共有フォルダーに送信したいときは、[Home] キーを選ぶと送信できます。

お使いになるために必要な作業（管理者向け）

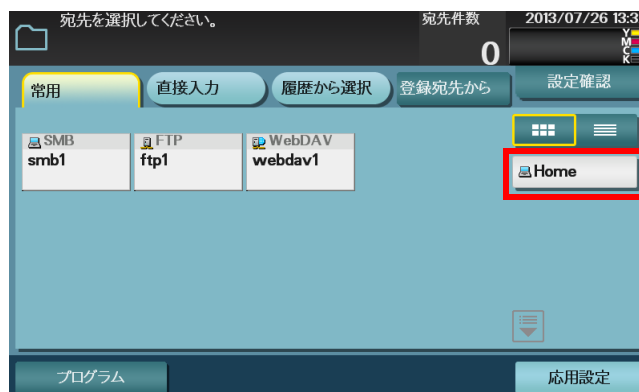
Scan to Home 機能を使うには、次の設定が必要です。

- Active Directory に、ユーザーの登録情報として Home ディレクトリーを登録する
- 本機で Active Directory 認証を設定する
- 本機の Scan to Home 機能を有効にする

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 ユーザー情報を入力して、ログインします。
- 3 [スキャン（フォルダー）] をタップします。
- 4 [Home] を選びます。



- 5 必要に応じて、スキャン送信のオプション設定をします。
- 6 スタートを押します。
 - 必要に応じて、送信前に [設定確認] をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 - 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、[リセット] を押します。
 - 原稿の読み込み中に [ストップ] を押すと、読み込みを停止します。原稿の読み込みを中止したいときは、ジョブ画面から停止中のジョブを削除します。送信が開始されます。

3.4.2 原稿データの保存先を E-mail で知らせる（URL 通知）

URL 通知について

スキャン送信または HDD 保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送信します。

プロジェクトメンバー間で、共有フォルダーや FTP サーバー、WebDAV サーバーなどをファイルの受渡しに使っているときなど、お知らせメールの宛先にメーリングリスト用のメールアドレスを指定することで、情報共有がしやすくなります。



参考

保存先のお知らせができるスキャン送信機能は、SMB 送信、FTP 送信、WebDAV 送信、HDD 保存に限ります。

お使いになるために必要な作業（管理者向け）

E-mail 環境を準備します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 [スキャン（フォルダー）] をタップします。
- 3 宛先を指定します。
- 4 [応用設定] - [応用] - [URL 通知先設定] を [ON] に設定し、保存先をお知らせするメールアドレスを直接入力して指定するか、または短縮宛先（E-mail 宛先）の中から選んで指定します。
 - 通知できる宛先（メールアドレス）は 1 件だけなので、メーリングリストを運用している場合は、メーリングリスト用のメールアドレスを宛先として登録すると便利です。



- 5 スタートを押します。
 - 必要に応じて、送信前に [設定確認] をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 - 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、[リセット] を押します。
 - 原稿の読み込み中に [ストップ] を押すと、読み込みを停止します。原稿の読み込みを中止したいときは、ジョブ画面から停止中のジョブを削除します。送信が開始されます。

4

FTP サーバーに送信する
(FTP 送信)

4 FTP サーバーに送信する（FTP 送信）

4.1 FTP 送信機能について

FTP 送信は、本機で読込んだ原稿データを、コンピューターで扱えるファイルに変換して、FTP サーバーにアップロードする機能です。

普段から、FTP サーバーを通じてファイルの受渡しをしている場合に便利です。

FTP サーバーにアップロードしたファイルは、コンピューターからダウンロードできます。

4.2 FTP 送信の準備（管理者向け）

4.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
 - ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。
-



FTP 送信の使用環境を準備する

- FTP 送信機能を有効にする
 - 通常は、初期設定の状態でお使いいただけます。
-



お使いの環境に合わせて設定する

- よく送信する宛先を登録する
 - 送信のたびに宛先入力する手間を省けます。
 - プロキシサーバーを使う
 - お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを経由する場合に設定します。
-



準備完了

4.2.2 お使いになるために必要な作業

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。

ネットワークの設定を確認する

設定情報リストを印刷し、本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。

設定情報リストは、[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [プリンター設定] - [レポート出力] - [設定情報リスト] から印刷します。



参照

IP アドレスが割当てられていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、[すぐに使える簡単設定ガイド] の 4 章「本機の初期設定」をごらんください。

FTP 送信の使用環境を確認する

FTP 送信機能を有効にします（通常は、初期設定の状態でお使いいただけます）。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

4.2.3 必要に応じて行う作業

よく送信する宛先を登録する

よく送信する FTP サーバーは、あらかじめ本機に宛先として登録することで、送信のたびに入力する手間が省けます。

FTP 宛先は、Web Connection でのみ登録できます。登録のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

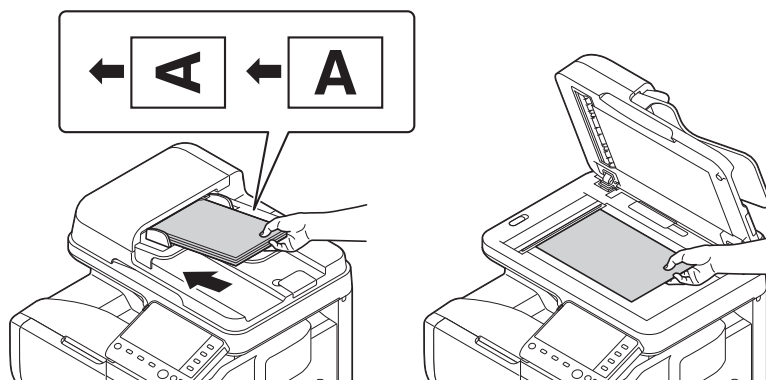
プロキシサーバーを使う

お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを経由する場合は、プロキシサーバーを登録します。

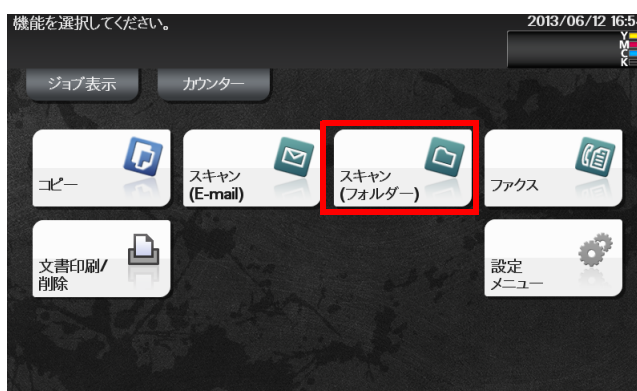
登録のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

4.3 送信のしかた

- 1 原稿をセットします。

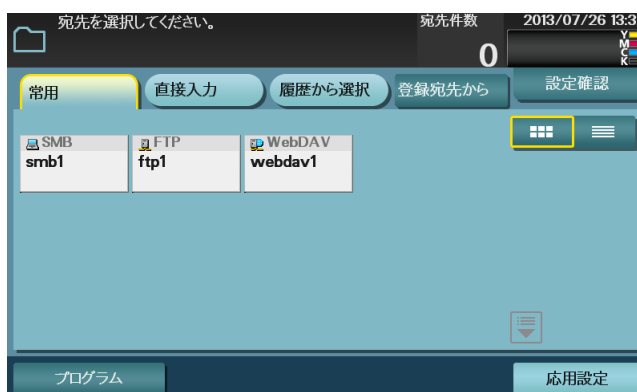


- 2 「スキャン（フォルダー）」をタップします。

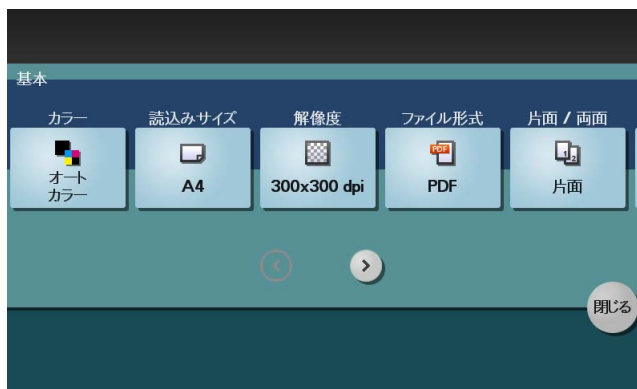


- 3 送信先の FTP サーバーを指定します。

- 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-8 ページをごらんください。
- 複数の宛先を指定することで、FTP 送信、SMB 送信などが同時に実行できます。



4 「応用設定」をタップし、スキャン送信のオプション設定をします。



- 本機で原稿を読み込む前に、読み込む原稿のサイズを設定する必要があります。原稿サイズを正しく設定しないと、画像が欠ける場合があります。原稿サイズの設定については、1-13 ページをご覧ください。
- オプション設定について詳しくは、以下の各項目をご覧ください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-13 ページ
原稿の読み込み方法を設定したい	1-16 ページ
原稿の内容に応じて画質や濃度を調整したい	1-17 ページ

5 スタートを押します。

- 必要に応じて、送信前に「設定確認」をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
- 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。
- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読みみを停止します。原稿の読みみを中止したいときは、ジョブ画面から停止中のジョブを削除します。

スタート



送信が開始されます。

参照

よく送信する宛先は、プログラムに登録すると便利です。プログラムについて詳しくは、1-5 ページをご覧ください。

関連設定

必要に応じて、ファイル送信画面の初期表示を変更できます。
 設定するには：[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [画面カスタマイズ設定] - [ファクス / スキャン設定] - [スキャン (フォルダー) 基本画面表示] (初期値：[常用])

4.4 応用機能の紹介

4.4.1 原稿データの保存先を E-mail で知らせる（URL 通知）

URL 通知について

スキャン送信または HDD 保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送信します。

プロジェクトメンバー間で、共有フォルダーや FTP サーバー、WebDAV サーバーなどをファイルの受渡しに使っているときなど、お知らせメールの宛先にメーリングリスト用のメールアドレスを指定することで、情報共有がしやすくなります。



参考

保存先のお知らせができるスキャン送信機能は、SMB 送信、FTP 送信、WebDAV 送信、HDD 保存に限ります。

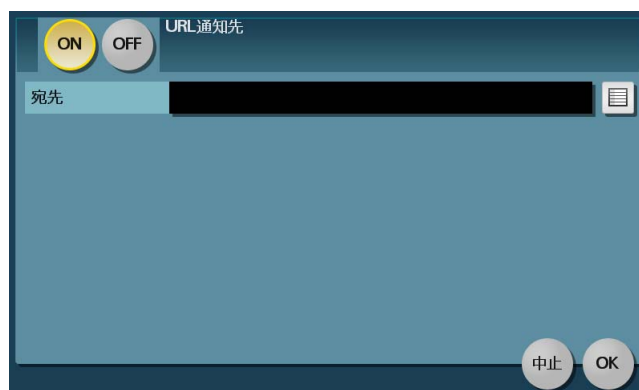
お使いになるために必要な作業（管理者向け）

E-mail 環境を準備します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 [スキャン（フォルダー）] をタップします。
- 3 宛先を指定します。
- 4 [応用設定] - [応用] - [URL 通知先設定] を [ON] に設定し、保存先をお知らせするメールアドレスを直接入力して指定するか、または短縮宛先（E-mail 宛先）の中から選んで指定します。
 - 通知できる宛先（メールアドレス）は 1 件だけなので、メーリングリストを運用している場合は、メーリングリスト用のメールアドレスを宛先として登録すると便利です。



- 5 スタートを押します。
 - 必要に応じて、送信前に [設定確認] をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 - 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、[リセット] を押します。
 - 原稿の読み込み中に [ストップ] を押すと、読み込みを停止します。原稿の読み込みを中止したいときは、ジョブ画面から停止中のジョブを削除します。送信が開始されます。

5

WebDAV サーバーに送信する
(WebDAV 送信)

5 WebDAV サーバーに送信する (WebDAV 送信)

5.1 WebDAV 送信機能について

WebDAV 送信は、本機で読込んだ原稿データを、コンピュータで扱えるファイルに変換して、WebDAV サーバーにアップロードする機能です。

普段から、WebDAV サーバーを通じてファイルの受渡しをしている場合に便利です。

WebDAV サーバーにアップロードしたファイルは、コンピュータからダウンロードできます。

5.2 WebDAV 送信の準備（管理者向け）

5.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
- ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。



WebDAV 送信の使用環境を準備する

- WebDAV 送信機能を有効にする
 - 通常は、初期設定の状態でお使いいただけます。



お使いの環境に合わせて設定する

- よく送信する宛先を登録する
 - 送信のたびに宛先入力する手間を省けます。
- プロキシサーバーを使う
 - お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを経由する場合に設定します。
- SSL で通信する
 - お使いの環境で WebDAV サーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。



準備完了

5.2.2 お使いになるために必要な作業

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。

ネットワークの設定を確認する

設定情報リストを印刷し、本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。

設定情報リストは、[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [プリンター設定] - [レポート出力] - [設定情報リスト] から印刷します。



参照

IP アドレスが割当てられていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、[すぐに使える簡単設定ガイド] の 4 章「本機の初期設定」をごらんください。

WebDAV 送信の使用環境を確認する

WebDAV 送信機能を有効にします（通常は、初期設定の状態でお使いいただけます）。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

5.2.3 必要に応じて行う作業

よく送信する宛先を登録する

よく送信する WebDAV サーバーは、あらかじめ本機に宛先として登録することで、送信のたびに入力する手間が省けます。

WebDAV 宛先は、**Web Connection** でのみ登録できます。登録のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

プロキシサーバーを使う

お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを経由する場合は、プロキシサーバーを登録します。

登録のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

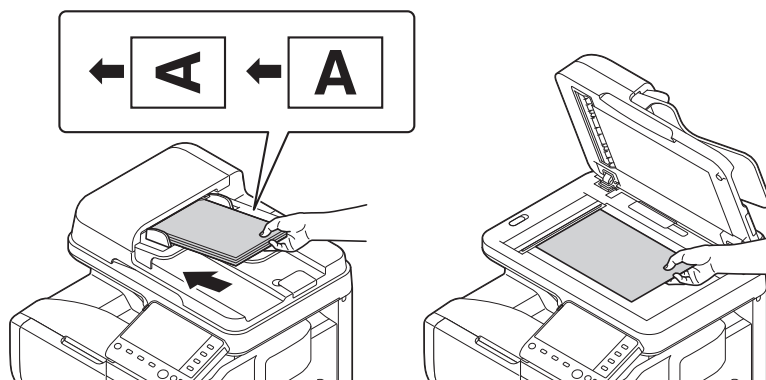
SSL で通信する

お使いの環境で WebDAV サーバーとの通信を SSL で暗号化している場合は、SSL 通信の設定をします。

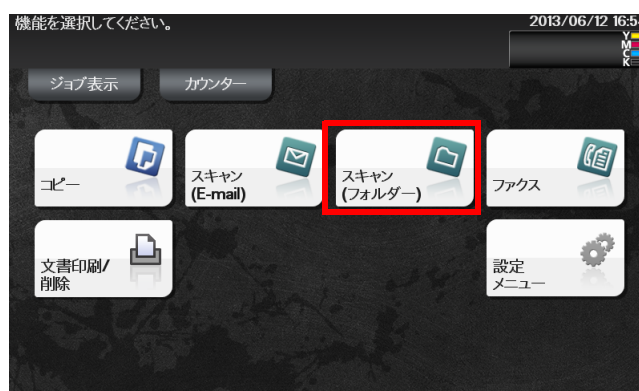
設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

5.3 送信のしかた

- 1 原稿をセットします。

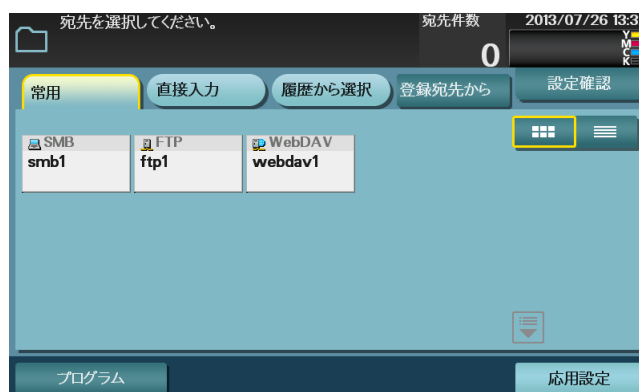


- 2 「スキャン（フォルダー）」をタップします。

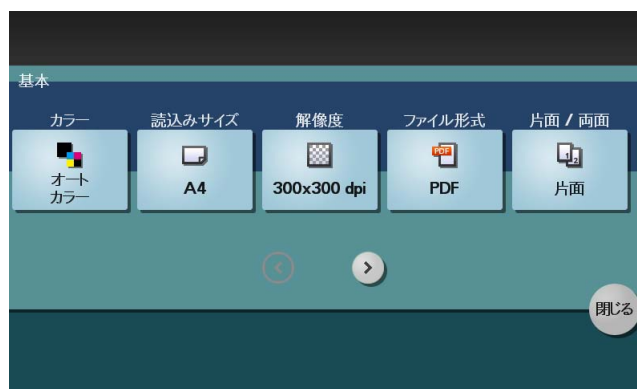


- 3 送信先の WebDAV サーバーを指定します。

- 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-8 ページをごらんください。
- 複数の宛先を指定することで、WebDAV 送信、SMB 送信などが同時に実行できます。



4 「応用設定」をタップし、スキャン送信のオプション設定をします。



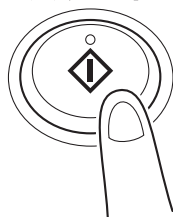
- 本機で原稿を読み込む前に、読み込む原稿のサイズを設定する必要があります。原稿サイズを正しく設定しないと、画像が欠ける場合があります。原稿サイズの設定については、1-13 ページをご覧ください。
- オプション設定について詳しくは、以下の各項目をご覧ください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-13 ページ
原稿の読み込み方法を設定したい	1-16 ページ
原稿の内容に応じて画質や濃度を調整したい	1-17 ページ

5 スタートを押します。

- 必要に応じて、送信前に「設定確認」をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
- 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。
- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読みみを停止します。原稿の読みみを中止したいときは、ジョブ画面から停止中のジョブを削除します。

スタート



送信が開始されます。

参照

よく送信する宛先は、プログラムに登録すると便利です。プログラムについて詳しくは、1-5 ページをご覧ください。

関連設定

必要に応じて、ファイル送信画面の初期表示を変更できます。
 設定するには：[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [画面カスタマイズ設定] - [ファクス / スキャン設定] - [スキャン（フォルダー）基本画面表示]（初期値：[常用]）

5.4 応用機能の紹介

5.4.1 原稿データの保存先を E-mail で知らせる（URL 通知）

URL 通知について

スキャン送信または HDD 保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送信します。

プロジェクトメンバー間で、共有フォルダーや FTP サーバー、WebDAV サーバーなどをファイルの受渡しに使っているときなど、お知らせメールの宛先にメーリングリスト用のメールアドレスを指定することで、情報共有がしやすくなります。



参考

保存先のお知らせができるスキャン送信機能は、SMB 送信、FTP 送信、WebDAV 送信、HDD 保存に限ります。

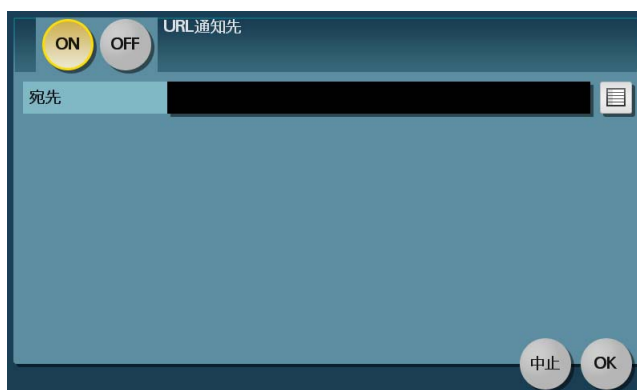
お使いになるために必要な作業（管理者向け）

E-mail 環境を準備します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 [スキャン（フォルダー）] をタップします。
- 3 宛先を指定します。
- 4 [応用設定] - [応用] - [URL 通知先設定] を [ON] に設定し、保存先をお知らせするメールアドレスを直接入力して指定するか、または短縮宛先（E-mail 宛先）の中から選んで指定します。
 - 通知できる宛先（メールアドレス）は 1 件だけなので、メーリングリストを運用している場合は、メーリングリスト用のメールアドレスを宛先として登録すると便利です。



- 5 スタートを押します。
 - 必要に応じて、送信前に [設定確認] をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 - 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、**リセット**を押します。
 - 原稿の読み込み中に**ストップ**を押すと、読み込みを停止します。原稿の読み込みを中止したいときは、ジョブ画面から停止中のジョブを削除します。送信が開始されます。



6

本機のHDDに保存する（HDD
保存）

6 本機の HDD に保存する（HDD 保存）

6.1 HDD 保存機能について

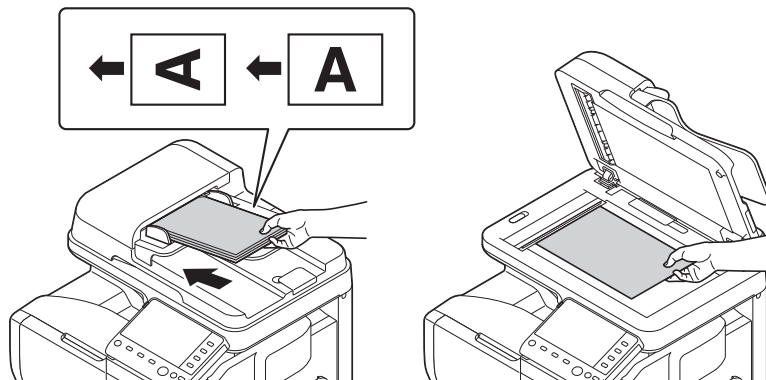
HDD 保存は、本機で読込んだ原稿データを、本機内蔵の HDD に保存する機能です。

HDD に保存した原稿データは、コンピューターで Web ブラウザーを使ってダウンロードできます。

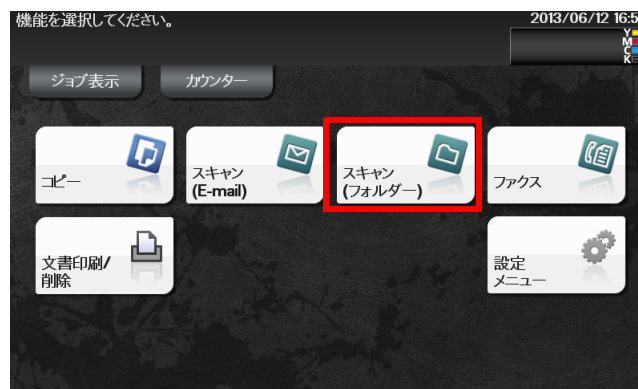
6.2 保存のしかた

✓ 最大 100 ファイルまで保存できます。

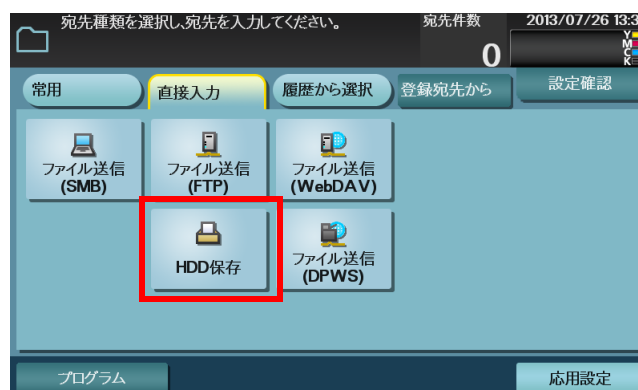
1 原稿をセットします。



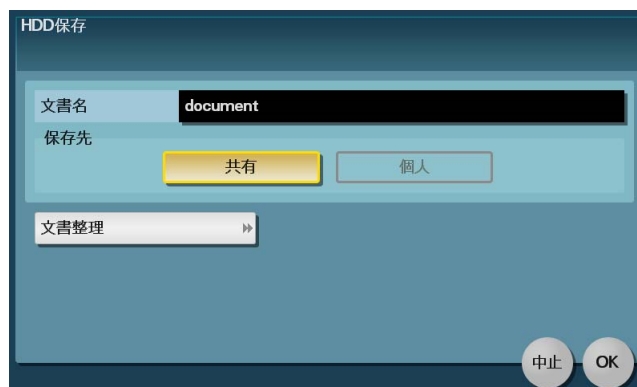
2 「スキャン（フォルダー）」をタップします。



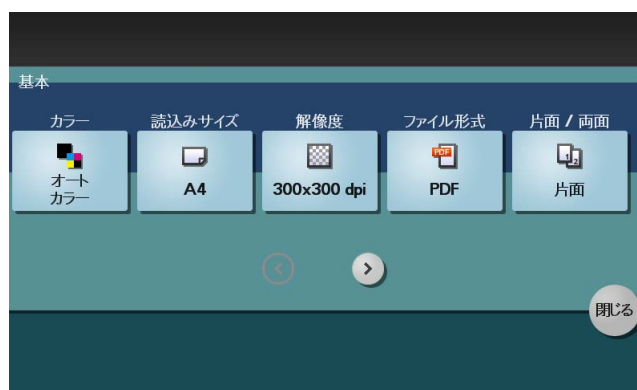
3 「直接入力」 - 「HDD 保存」をタップします。



- 4 HDD に保存する原稿のファイル名を入力し、[OK] をタップします。
- ユーザー認証を導入し、登録ユーザーでログインしている場合は、ファイルの保存先として [共有] (HDD の共有領域) または [個人] (HDD の個人用領域) を選びます。
 - [文書整理] をタップすると、HDD 内のファイルの詳細情報の確認や、ファイルの削除ができます。



- 5 [応用設定] をタップし、スキャン送信のオプション設定をします。



- 本機で原稿を読み込む前に、読み込む原稿のサイズを設定する必要があります。原稿サイズを正しく設定しないと、画像が欠ける場合があります。原稿サイズの設定については、1-13 ページをご覧ください。
- オプション設定について詳しくは、以下の各項目をご覧ください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-13 ページ
原稿の読み込み方法を設定したい	1-16 ページ
原稿の内容に応じて画質や濃度を調整したい	1-17 ページ

6 スタートを押します。

- 必要に応じて、送信前に〔設定確認〕をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
- 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、**リセット**を押します。
- 原稿の読み込み中に**ストップ**を押すと、読みみを停止します。原稿の読みみを中止したいときは、ジョブ画面から停止中のジョブを削除します。



保存が開始されます。



関連設定

必要に応じて、ファイル送信画面の初期表示を変更できます。

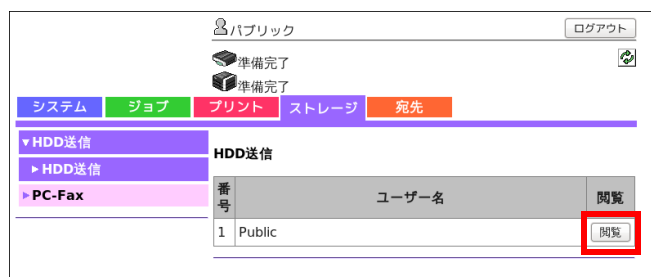
設定するには：〔設定メニュー〕 - 〔ユーザー設定〕 - 〔画面カスタマイズ設定〕 - 〔ファクス / スキャン設定〕 - 〔スキャン（フォルダー）基本画面表示〕（初期値：〔常用〕）

6.3 HDD に保存したファイルを活用する

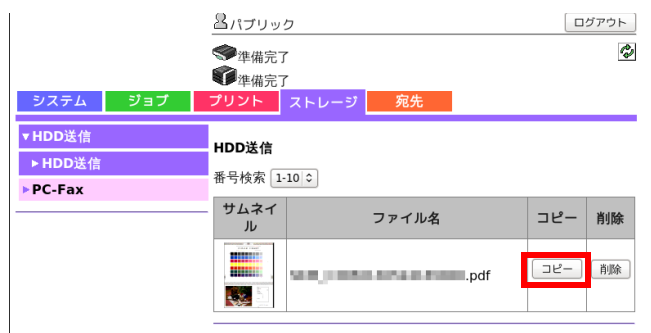
6.3.1 HDD に保存したファイルをダウンロードする

Web Connection を使えば、HDD 内のファイルの確認やダウンロード、削除ができます。

- 1 Web ブラウザーを使って Web Connection へアクセスします。
→ Web ブラウザーの URL フィールドに、本機の IP アドレスを入力してキーボードの Enter を押します。
http:// <本機の IP アドレス> /
- 2 パブリックユーザーまたは登録ユーザーでログインします。
→ 管理者モードにログインすると、全てのユーザーのファイルの閲覧、削除ができます。
- 3 [ストレージ] タブの [HDD 送信] をクリックします。
HDD にファイルを保存しているユーザーの一覧が表示されます。
- 4 ダウンロードしたいファイルが保存されているユーザーの欄の [閲覧] をクリックします。
→ 管理者モードにログインしている場合は、[削除] をクリックすると、選択したユーザーの全てのファイルを削除できます。



- 5 ダウンロードしたいファイルの欄の [コピー] をクリックします。
→ サムネイルまたはファイル名をクリックすると、選択したファイルの詳細情報が表示されます。
→ [削除] をクリックすると、選択したファイルを削除できます。



ファイルのダウンロードが開始されます。



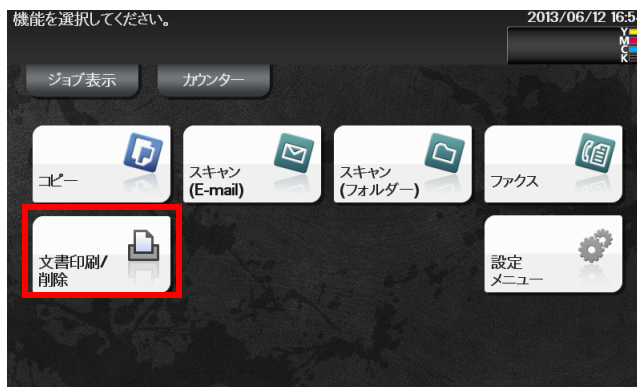
参照

Web Connection の使い方について詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 1 章「Web Connection を使う」をごらんください。

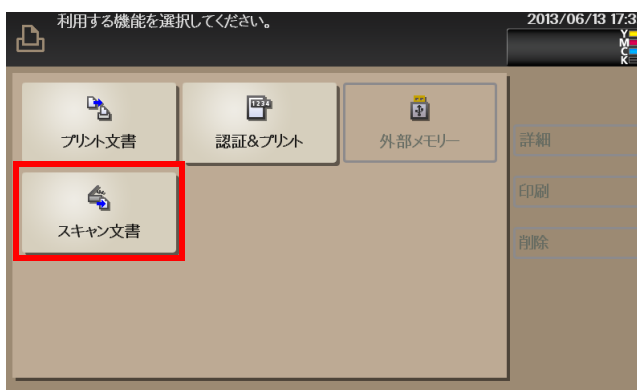
6.3.2 HDD に保存したファイルを確認または削除する

操作パネルから、HDD 内のファイルの確認や削除ができます。

- 1 「文書印刷 / 削除」をタップします。



- 2 「スキャン文書」をタップします。



- 3 ファイルを選び、操作を選びます。
 - ファイルを確認したい場合は、「詳細」をタップします。
 - ファイルを削除したい場合は、「削除」をタップします。

6.4 応用機能の紹介

6.4.1 原稿データの保存先を E-mail で知らせる（URL 通知）

URL 通知について

スキャン送信または HDD 保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送信します。

プロジェクトメンバー間で、共有フォルダーや FTP サーバー、WebDAV サーバーなどをファイルの受渡しに使っているときなど、お知らせメールの宛先にメーリングリスト用のメールアドレスを指定することで、情報共有がしやすくなります。



参考

保存先のお知らせができるスキャン送信機能は、SMB 送信、FTP 送信、WebDAV 送信、HDD 保存に限ります。

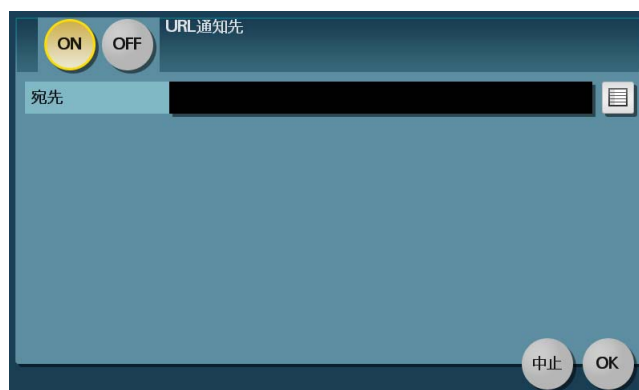
お使いになるために必要な作業（管理者向け）

E-mail 環境を準備します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 [スキャン（フォルダー）] をタップします。
- 3 宛先を指定します。
- 4 [応用設定] - [応用] - [URL 通知先設定] を [ON] に設定し、保存先をお知らせするメールアドレスを直接入力して指定するか、または短縮宛先（E-mail 宛先）の中から選んで指定します。
 - 通知できる宛先（メールアドレス）は 1 件だけなので、メーリングリストを運用している場合は、メーリングリスト用のメールアドレスを宛先として登録すると便利です。



- 5 スタートを押します。
 - 必要に応じて、送信前に [設定確認] をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 - 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。
 - 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止します。原稿の読み込みを中止したいときは、ジョブ画面から停止中のジョブを削除します。送信が開始されます。



USB メモリーに保存する
(USB 保存)

7 USB メモリーに保存する（USB 保存）

7.1 USB メモリー保存機能について

USB メモリー保存は、本機で読込んだ原稿データを、本機に接続した USB メモリーに保存する機能です。

7.2 USB メモリー保存の準備

本機に接続できる USB メモリーの仕様は次のとおりです。

項目	対応
インターフェース	USB（1.0/2.0）インターフェース対応のもの
フォーマット形式	FAT32 形式でフォーマットされているもの
セキュリティ	暗号化やパスワードロックなどのセキュリティ機能が付加されていないか、または OFF にできるもの

本機に USB メモリーを接続するときは次の点にご注意ください。

- USB メモリーへの保存中や USB メモリー内のファイルの印刷中には、USB メモリーを抜かないでください。
- USB メモリー以外の USB 機器（ハードディスク、USB ハブなど）は使用しないでください。
- 本機の起動中は USB メモリーの抜き差しを行わないでください。
- USB メモリーを差込んだ直後に抜かないでください。



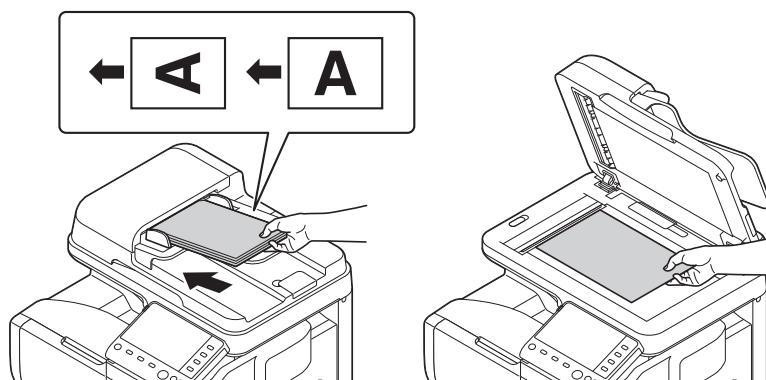
④ 関連設定（管理者向け）

USB メモリーへのファイルの保存を許可するかどうかを設定できます。

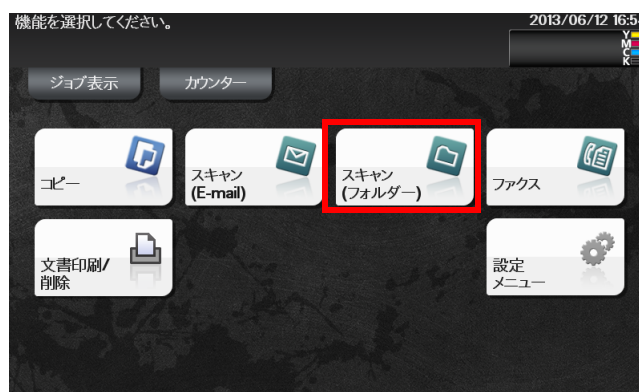
設定するには：[設定メニュー] - [管理者設定] - [環境設定] - [フォルダー設定] - [外部メモリー機能設定] - [外部メモリー保存禁止]（初期値：[OFF]）

7.3 保存のしかた

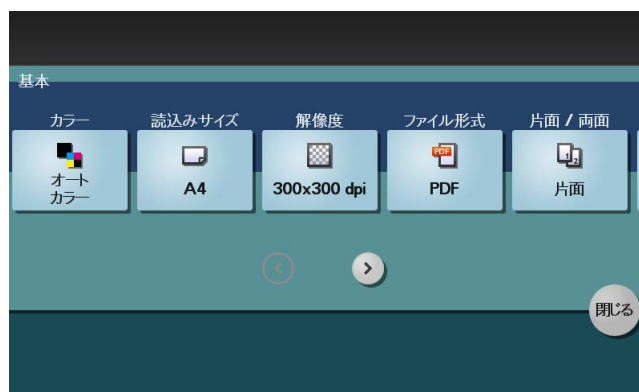
- 1 本機に USB メモリーを接続します。
- 2 原稿をセットします。



- 3 「スキャン（フォルダー）」をタップします。



- 4 「応用設定」をタップし、スキャン送信のオプション設定をします。



- 本機で原稿を読み込む前に、読み込む原稿のサイズを設定する必要があります。原稿サイズを正しく設定しないと、画像が欠ける場合があります。原稿サイズの設定については、1-13 ページをご覧ください。
- オプション設定について詳しくは、以下の各項目をご覧ください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-13 ページ
原稿の読み込み方法を設定したい	1-16 ページ
原稿の内容に応じて画質や濃度を調整したい	1-17 ページ

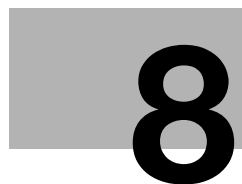
- 5 [直接入力] - [USB 保存] をタップします。
→ すでに他の宛先を指定している場合、[USB 保存] は選択できません。
- 6 USB メモリーに保存する原稿のファイル名を入力し、[実行] をタップします。
保存が開始されます。



④ 関連設定

必要に応じて、ファイル送信画面の初期表示を変更できます。

設定するには：[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [画面カスタマイズ設定] - [ファクス / スキャン設定] - [スキャン（フォルダー）基本画面表示]（初期値：[常用]）



Web サービスで送信する
(WS スキャン)

8 Web サービスで送信する（WS スキャン）

8.1 WS スキャン機能について

WS スキャンは、面倒な環境設定をすることなく、コンピューターからスキャンの指示をして原稿データを取込んだり、本機でスキャンした原稿データをコンピューターに送信したりできます。

Vista 以降の Windows コンピューター（Windows Vista/7/8/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012）で対応しています。

8.2 WS スキャンの準備

8.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
 - ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。
-



WS スキャン送信の使用環境を準備する

- Web サービス機能を有効にする
 - Web サービス機能の設定とスキャナー名を確認します。
-



コンピューターの使用環境を準備する

- スキャナードライバーをインストールする
 - Web サービスで使うスキャナードライバーをインストールします。
-



お使いの環境に合わせて設定する

- SSL で通信する
 - お使いの環境で Web サービスを使った通信を SSL で暗号化している場合に設定します。
-



準備完了

8.2.2 本機側：お使いになるために必要な作業（管理者向け）

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。

ネットワークの設定を確認する

設定情報リストを印刷し、本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。

設定情報リストは、[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [プリンター設定] - [レポート出力] - [設定情報リスト] から印刷します。



参照

IP アドレスが割当てられていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、[すぐに使える簡単設定ガイド] の 4 章「本機の初期設定」をごらんください。

WS スキャン送信の使用環境を設定する

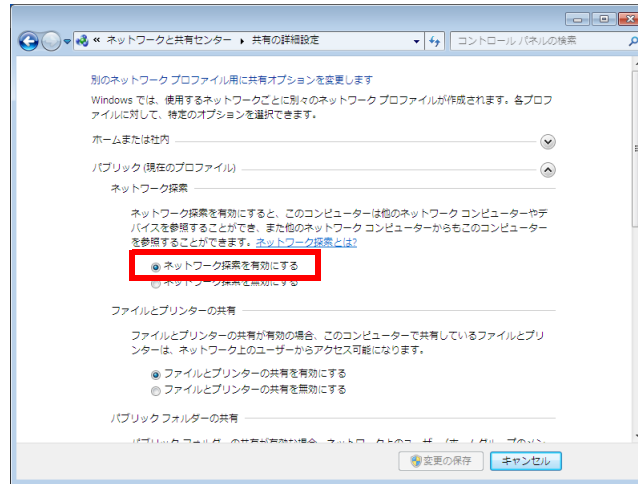
Web サービスによるスキャンを有効にします。あわせて、Web サービスを使って本機を検出するための設定や、スキャナーとしての本機の情報、本機との接続方法などを設定します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

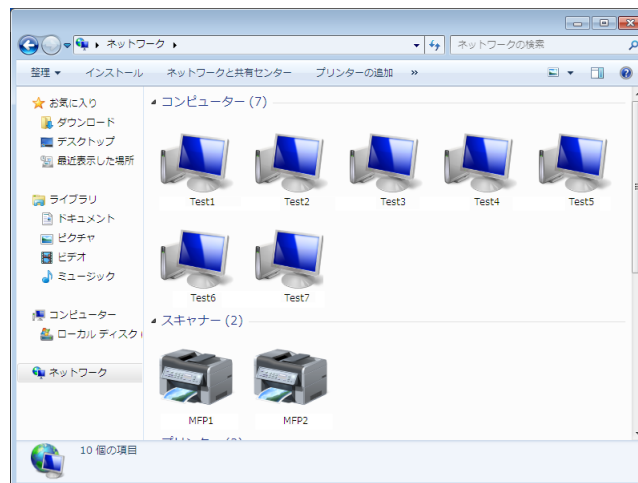
8.2.3 コンピューター側：お使いになるために必要な作業

コンピューターに、WS スキャンで使うスキャナードライバーをインストールします。インストール後、ドライバーに、スキャン送信後の動作を設定します。ここでは、Windows 7 を例に説明します。

インストールの前に、スタートメニューから [コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークと共有センター] - [共有の詳細設定の変更] で、[ネットワーク探索] が有効に設定されていることを確認してください。

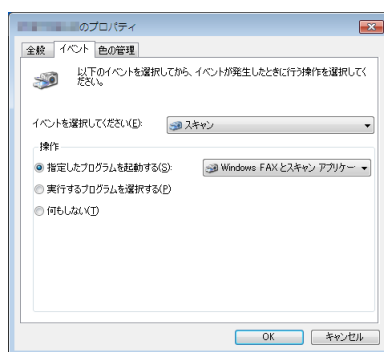


- 1 スタートメニューから [コンピューター] - [ネットワーク] をクリックします。
ネットワークに接続されている機器が表示されます。



- 2 本機のスキャナーアイコンを右クリックして、[インストール] を選びます。
 - コンピューター側の設定によっては、UAC (User Account Control) 画面が表示されることがあります。内容を確認し、続行してください。
 - 本機の Web サービスの設定で、スキャン機能とプリンター機能の両方が有効になっている場合、本機はプリンターアイコンで表示されます。
 - Windows 8/Server 2012 の場合は、ツールバーから [ネットワーク] - [デバイスとプリンターの追加] をクリックします。表示された画面で、本機のデバイス名を選び、[次へ] をクリックします。ドライバーが自動的にインストールされます。確認画面が表示されたら [閉じる] をクリックします。
- 3 スタートメニューから [デバイスとプリンター] をクリックします。
- 4 本機のアイコンを右クリックして、[スキャン プロパティ] をクリックします。

- 5 [イベント] タブをクリックして、スキャン送信（WS スキャン）したときの、送信先のコンピューターの動作（原稿データの保存のしかた）を設定します。



設定	説明
[イベントを選択してください]	[スキャン] を選びます。
[操作]	本機でスキャン送信したときの、送信先のコンピューターの動作を選びます。 ・ [指定したプログラムを起動する]：WS スキャンの宛先に選んだコンピューターにインストールされている、WS スキャンができるアプリケーションソフトウェアを起動して、読込んだ原稿データをアプリケーションウィンドウに表示します。起動するアプリケーションは、リストから選びます。 ・ [実行するプログラムを選択する]：お使いのコンピューター（送信先のコンピューター）にインストールされている WS スキャンができるアプリケーションソフトウェアの一覧を、スキャン送信したコンピューターの画面に表示します。 ・ [何もしない]：アプリケーションソフトウェアを起動せず、以下のフォルダーにファイルとして保存します。 コンピューターのスタートメニュー - [ドキュメント] - [Scanned Documents]

- 6 必要に応じて、本機のアイコンを右クリックして [スキャン プロファイル] をクリックし、スキャン設定の初期値を変更します。

→ スキャン設定の内容について詳しくは、8-9 ページをごらんください。

- 7 本機の操作パネルで、ファイル送信画面の [直接入力] - [ファイル送信 (DPWS)] をタップし、送信したいコンピューターが表示されることを確認します。

以上で、コンピューター側の設定の完了です。

8.2.4 本機側：必要に応じて行う作業（管理者向け）

SSL で通信する

お使いの環境で Web サービスを使った通信を SSL で暗号化している場合は、SSL 通信の設定をします。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

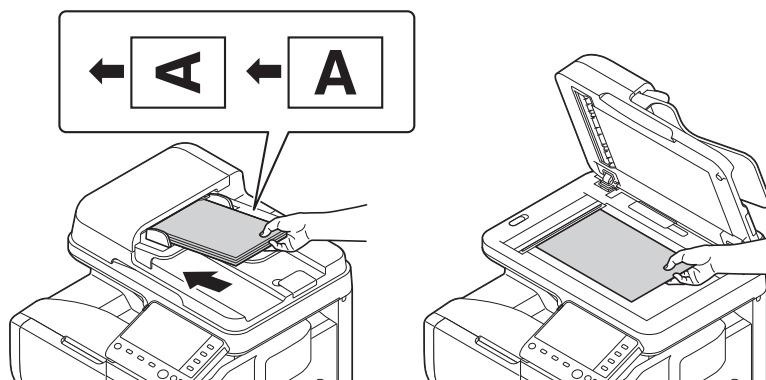


参考

Windows 8 をお使いの場合、Web サービスを使った通信を SSL で暗号化することはできません。

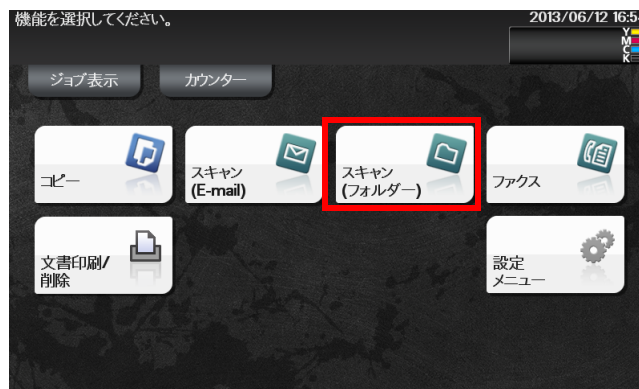
8.3 スキャン送信のしかた

- 1 原稿をセットします。



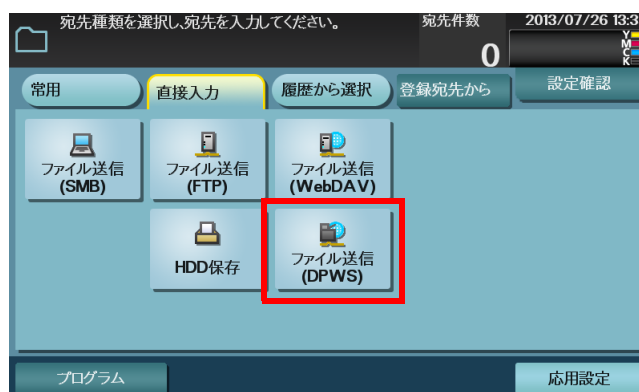
→ 原稿は、[スキャン プロファイル] の [スキャナーの種類] で初期値として設定している場所にセットしてください。[スキャン プロファイル] の確認方法について詳しくは、「コンピューター側：お使いになるために必要な作業」(8-5 ページ) の手順 6 をご覧ください。

- 2 [スキャン (フォルダー)] をタップします。



- 3 [直接入力] - [ファイル送信 (DPWS)] を選びます。

→ すでに他の宛先を指定している場合、[ファイル送信 (DPWS)] は選択できません。



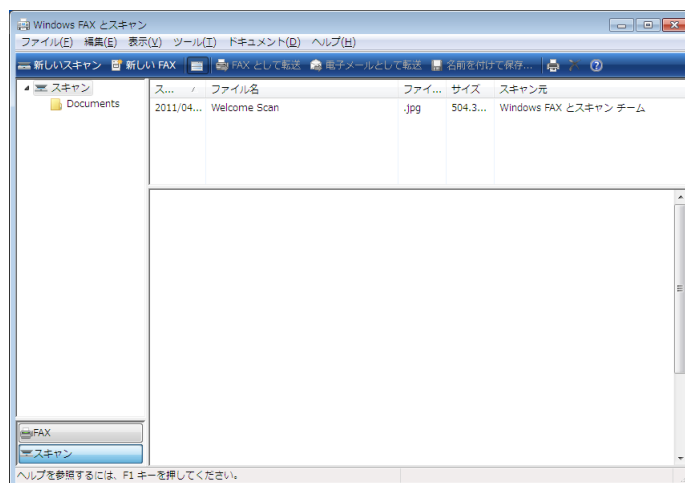
本機を Web サービスを使ったスキャナーとして登録している、ネットワーク上のコンピューターが、宛先として表示されます。

- 4 送信先のコンピューターを選び、[実行] をタップします。
 - 検索文字入力エリアをタップすると、宛先の名前に含まれるキーワードを入力して、宛先を検索できます。
 - [詳細] をタップすると、宛先の名前と URL を表示します。送信が開始されます。
- 5 送信先を選んだコンピューターを操作して、原稿の取込みに起動するアプリケーションソフトウェアを操作したり、スキャン送信で保存したファイルを確認します。
 - 本機からスキャン送信した場合は、送信先のコンピューターのアプリケーションを起動して原稿データを取込むか、特定のフォルダーに保存するかの、2 種類の保存のしかたがあります。詳しくは、8-5 ページをごらんください。

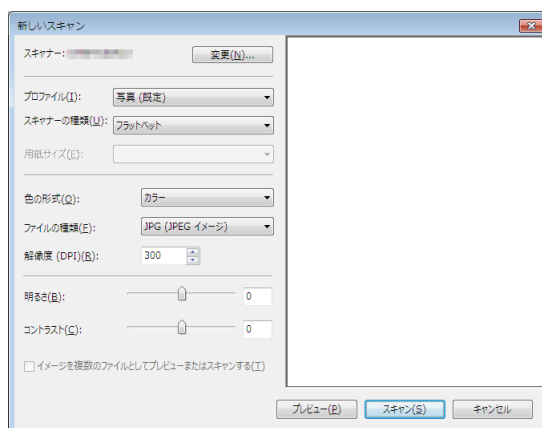
8.4 コンピューターから取込む

コンピューターのアプリケーションソフトウェアを通じて本機を操作して、読み込んだ原稿データを取込みます。取込んだ原稿データは編集したり、そのままコンピューターに保存したりできます。ここでは、Windows 7 とアプリケーションソフトウェア [Windows FAX とスキャン] を使って説明します。

- 1 スタートメニューから [すべてのプログラム] - [Windows FAX とスキャン] をクリックします。



- 2 [新しいスキャン] をクリックします。
[新しいスキャン] ウィンドウが表示されます。
- 3 読み込む原稿に合わせて、以下の各項目を任意で設定します。

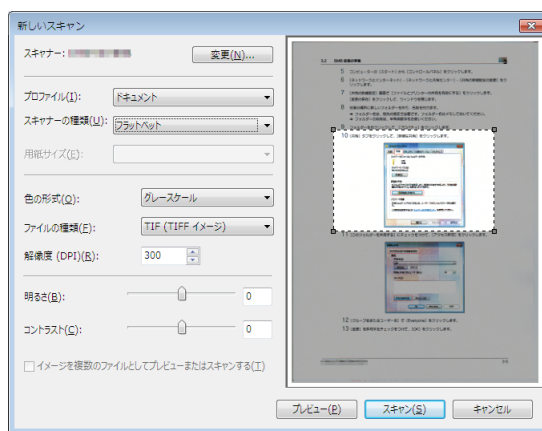


設定	説明
[スキャナー]	本機のスキャナー名を表示します。 他のスキャナーに切替えたいときは、[変更] をクリックします。
[プロファイル]	本機にセットする原稿に合わせて、プロファイルを選びます。 ・ [写真]：写真が多い原稿を読み込むときに選びます。 ・ [ドキュメント]：文字が多い原稿を読み込むときに選びます。 ・ [最後に使用された設定]：前回読み込んだ時の設定値を使って読み込むときに選びます。 ・ [プロファイルの追加]：上記の選択肢以外に新たなプロファイルを作成して、選択肢を追加するときに選びます。[プロファイルの追加] を選ぶと、[新しいプロファイルの追加] ウィンドウを表示します。
[スキャナーの種類]	原稿をセットする場所を選びます。 ・ [フラットベッド]：原稿を原稿ガラスにセットするときに選びます。[フラットベッド] を選ぶと、読み込み機能である [プレビュー] を使用できます。 ・ [フィーダー]：原稿を ADF にセットするときに選びます。

設定	説明
〔用紙サイズ〕	〔スキャナーの種類〕で〔フィーダー〕を選んだ場合に、読み込む原稿のサイズを指定します。
〔色の形式〕	原稿を読み込むカラーモードを、〔カラー〕または〔グレースケール〕から選びます。原稿の色に関わらず、選んだカラーモードで読み込みます。
〔ファイルの種類〕	保存するファイル形式を選びます。 〔BMP〕：Windows に付属のソフト「ペイント」で採用する画像ファイルの保存形式です。保存するデータの圧縮機能を持たないため、JPEG や PNG 等に比べ、ファイルサイズは大きくなります。 〔JPG〕：デジタルカメラでよく使われているファイルの保存形式で、写真の保存に適したファイル形式です。JPEG は、1つのファイルに複数ページを保存できません。 〔PNG〕：ファイル生成時に圧縮しても品質が劣化しない、画像ファイルの保存形式です。古い Web ブラウザーでは、表示できないものもあるので、注意が必要です。 〔TIF〕：汎用度の高い画像形式の1つです。TIFF は、1つのファイルに複数ページを持てるマルチページに対応しています。 〔XPS〕：Windows Vista から採用されたファイル形式です。
〔解像度 (DPI)〕	原稿を読み込むときの解像度を指定します。
〔明るさ〕	原稿を読み込むときの明るさを指定します。 明るさのレベルは、スライダーをドラッグするか、数値で指定します。
〔コントラスト〕	原稿を読み込むときのコントラストを指定します。 コントラストのレベルは、スライダーをドラッグするか、数値で指定します。

4 〔スキャン〕をクリックします。

- 〔スキャナーの種類〕で〔フラットベッド〕を選んだときは、ファイルとして保存する前に〔プレビュー〕をクリックして、読み込んだ原稿の画像を確認できます。
必要に応じて、表示された画像をトリミングしたり、〔明るさ〕や〔コントラスト〕、〔解像度 (DPI)〕などを変更します。読み込んだ原稿を確認したら、〔スキャン〕をクリックします。



原稿が読み込まれ、〔Windows FAX とスキャン〕のアプリケーションウィンドウに表示されます。

9

TWAIN/WIA スキャンで画像
を取込む

9 TWAIN/WIA スキャンで画像を取込む

9.1 TWAIN/WIA スキャン機能について

コンピューターから、TWAIN/WIA に対応した各種アプリケーションを通じて本機を操作して、読込んだ原稿データを取込みます。

取込んだデータは編集したり、そのままコンピューターに保存したりできます。

9.2 TWAIN/WIA スキャンの準備

9.2.1 本機側：お使いになるために必要な作業（管理者向け）

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。

ネットワークの設定を確認する

設定情報リストを印刷し、本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。

設定情報リストは、[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [プリンター設定] - [レポート出力] - [設定情報リスト] から印刷します。



参照

IP アドレスが割当てられていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、[すぐに使える簡単設定ガイド] をごらんください。

9.2.2 コンピューター側：お使いになるために必要な作業

コンピューターの動作環境

Windows 環境の場合

項目	仕様
対応 OS	Windows XP/Vista/7/8/Server 2003/Server 2008 (32 bit) Windows XP/Vista/7/8/Server 2003/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012 (64 bit) * Service Pack などの最新情報に関しては、Readme を参照してください。
CPU	OS が推奨する環境以上
メモリー	OS が推奨するメモリー容量

Mac OS 環境の場合

項目	仕様
対応 OS	Mac OS X (10.3.9、10.4.x、10.5.x、10.6.x、10.7.x、10.8.x)
CPU	PowerPC、Intel プロセッサー
メモリー	OS が推奨するメモリー容量

スキャナードライバーのインストール (Windows 環境の場合)

本機に付属の CD-ROM からコンピューターにスキャナードライバーをインストールします。

- ✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。
 - ✓ CD-ROM は Drivers & Utilities CD-ROM を使います。
- 1 スキャナードライバーの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。
 - インストーラーが起動するのを確認し、手順 2 へ進みます。
 - インストーラーが起動しない場合は、CD-ROM 内のスキャナードライバーのフォルダーを開いて [AutoRun.exe] をダブルクリックし、手順 3 へ進みます。
 - [ユーザー アカウント制御] に関する画面が表示されるときは、[続行] または [はい] をクリックします。
 - 2 [スキャナー] をクリックします。
スキャナードライバーのインストーラーが起動します。
 - 3 [次へ] をクリックします。
 - 4 使用許諾契約書を確認してから [使用許諾契約の全条項に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。
 - 5 デバイス一覧から本機を選択して、[OK] をクリックします。
 - 本機がリストに検出されない場合は、[更新] をクリックするか、または [IP アドレスを指定] を選択し、本機の IP アドレスを入力してください。
 - 6 [完了] をクリックします。
以上で、スキャナードライバーのインストールの完了です。

スキャナードライバーのインストール (Mac OS 環境の場合)

本機に付属の CD-ROM からコンピューターにスキャナードライバーをインストールします。

- ✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。
 - ✓ CD-ROM は Drivers & Utilities CD-ROM を使います。
- 1 スキャナードライバーの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。
 - 2 デスクトップに表示される CD アイコンをダブルクリックし、[Drivers & Utilities] - [Mac] - [Scanner] フォルダー内の pkg ファイルをダブルクリックします。
スキャナードライバーのインストーラーが起動します。
 - 3 [続ける] をクリックします。
 - 4 [続ける] をクリックします。
 - 5 使用許諾契約書を確認し、[続ける] をクリックします。
 - 6 [同意する] をクリックします。
 - 7 標準インストール画面または簡易インストール画面で [インストール] をクリックします。
 - 認証画面が表示された場合は、コンピューターの管理者の名前とパスワードを入力してください。
 - 8 コンピューターの管理者の名前とパスワードを入力し、[OK] または [ソフトウェアのインストール] をクリックします。
 - 9 [閉じる] をクリックします。
以上で、スキャナードライバーのインストールの完了です。

9.3 TWAIN スキャンのしかた

コンピュータの操作でスキャンを実行します。スキャンした画像データは、TWAIN ドライバーに対応したアプリケーションソフトウェアのウィンドウに表示されます。

- 1 本機に原稿をセットします。
原稿をセットしたら、TWAIN スキャンをするコンピュータの前に移動します。
- 2 スキャンデータを取込む TWAIN 対応アプリケーションを起動します。
- 3 アプリケーションソフトウェアの設定に従って、スキャナードライバーを起動します。
- 4 原稿ガラスに原稿をセットした場合は、[プレスキャン] をクリックし、プレビュー領域に原稿を取込みます。
→ ADF に原稿をセットした場合は、[プレスキャン] は利用できません。手順 5 へ進みます。
- 5 スキャンの設定を行います。
→ [簡易モード] の設定項目

設定	説明
[スキャン目的]	原稿種類を選びます。
[スキャンタイプ]	スキャンする画像の形式を指定します。フルカラー、グレースケール、白黒から選びます。
[解像度]	原稿を読み込む解像度を選びます。
[自動色調整]	自動的に色を補正するかしないか設定します。
[自動傾き補正]	自動的に原稿の傾きを補正するかしないか設定します。
[給紙方法]	原稿ガラス（フラットベッド）と ADF のどちらに原稿をセットするかを選びます。ADF からスキャンするときは、片面か両面かを選びます。
[原稿サイズ]	原稿サイズを指定します。
[回転]	スキャンする画像の向きを設定します。 [裏面反転] にチェックをすると、裏面を 180° 回転してスキャンします（この設定は、[給紙方法] が [ADF（両面）] のときに設定可能です）。
[画像サイズ]	スキャン画像のデータサイズを表示します。
クリアアイコン	プレビュー画像を消去します。
[色調整前] / [色調整後] (RGB)	プレビュー画像上にカーソルを移動すると、カーソル位置の補正前後の色調が表示されます。
[幅] / [高さ]	プレビュー領域上の選択範囲の幅と 高さを表示します。

→ [詳細モード] の設定項目

設定	説明
[給紙方法]	原稿ガラス（フラットベッド）と ADF のどちらに原稿をセットするかを選びます。ADF からスキャンするときは、片面か両面かを選びます。
[原稿サイズ]	原稿サイズを指定します。
[スキャンタイプ]	スキャンする画像の形式を指定します。フルカラー、グレースケール、白黒から選びます。
[解像度]	原稿を読み込む解像度を選びます。
[スケール]	拡大 / 縮小率を設定します。 [解像度] が 1200dpi × 1200dpi 以上の場合は、サポート対象外となります。
[スキャンモード]	スキャンモードを選びます。 ・ [オート]：プレビュー画像に対して、明るい画像は暗く、暗い画像は明るくなるように自動調整します。 ・ [マニュアル]：明るさ / コントラスト、フィルター、カーブ、レベル、カラーバランス、色相 / 彩度の各タブで、各種設定を手動で調整します。
[画像サイズ]	スキャン画像のデータサイズを表示します。

設定	説明
[回転]	スキャンする画像の向きを設定します。 [裏面反転] にチェックをすると、裏面を 180° 回転してスキャンします (この設定は、[給紙方法] が [ADF (両面)] のときに設定可能です)。
[自動傾き補正]	自動的に原稿の傾きを補正するかしないか設定します。
オートクロップアイコン	プレビュー領域に表示された原稿の位置を自動的に検出し、原稿にフィットしたクロップ枠を引きます。
ズームプレスキャンアイコン	プレビュー領域上の選択範囲の再読み込みを行い、選択範囲をプレビュー領域全体に表示します。
鏡像アイコン	プレビュー画像の左右を反転します。
階調反転アイコン	プレビュー画像の色を反転します。
クリアアイコン	プレビュー画像を消去します。
[色調整前] / [色調整後] (RGB)	プレビュー画像上にカーソルを移動すると、カーソル位置の補正前後の色調が表示されます。
[幅] / [高さ]	プレビュー領域上の選択範囲の幅と 高さを表示します。
[保存]	現在の設定内容を設定ファイル (dat ファイル) として保存します。
[読み込み]	保存した設定ファイル (dat ファイル) を読み込みます。
[デフォルト]	すべての設定を初期値に戻します。

- 6 [スキャン] をクリックします。
アプリケーションソフトウェアに画像が取込まれます。

9.4 WIA スキャンのしかた

コンピュータの操作でスキャンを実行します。スキャンした画像データは、WIA ドライバーに対応したアプリケーションソフトウェアのウィンドウに表示されます。

- 1 本機に原稿をセットします。
原稿をセットしたら、WIA スキャンをするコンピュータの前に移動します。
- 2 スキャンデータを取込む WIA 対応アプリケーションを起動します。
- 3 アプリケーションソフトウェアの設定に従って、スキャナードライバーを起動します。
- 4 スキャンの設定を行い、[プレビュー] をクリックします。

設定	説明
[給紙方法]	原稿ガラス（フラットベッド）と ADF（ドキュメントフィーダー）のどちらに原稿をセットするかを選びます。
[カラー画像]	カラーでスキャンするときに選びます。
[グレースケール画像]	グレースケールでスキャンするときに選びます。
[白黒画像またはテキスト]	白黒でスキャンするときに選びます。
[カスタム設定]	詳細プロパティ画面の設定値を使うときに選びます。
[スキャンした画像の品質の調整]	詳細プロパティ画面で明るさ、コントラスト、解像度、画像の種類を設定します。 詳細プロパティ画面で設定した内容がカスタム設定になります。
[ページサイズ]	原稿サイズを指定します。 [給紙方法] で [ドキュメントフィーダー] を選んだ場合に有効です。

- 5 プレビュー画像を確認しながら、スキャン領域の指定や色調の補正を行います。
- 6 [スキャン] をクリックします。
アプリケーションソフトウェアに画像が取込まれます。

9.5 スキャナードライバーのアンインストール

Windows 環境の場合

インストーラーを使ってインストールした場合は、プリンタードライバーの削除機能が組み込まれています。

✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。

- 1 削除プログラムを起動します。
 - スタートメニューから [すべてのプログラム] (または [プログラム]) - [KONICA MINOLTA] - 本機のモデル名 - [スキャナー] - [アンインストール] をクリックします。
 - Windows 8 の場合は、スタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] - [コントロール パネル] - [プログラム] の [プログラムのアンインストール] をクリックします。一覧から、削除したいドライバーをダブルクリックします。
 - Windows Server 2012 の場合は、スタート画面で [コントロール パネル] - [プログラム] の [プログラムのアンインストール] をクリックします。一覧から、削除したいドライバーをダブルクリックします。
- 2 以降は、表示される画面に従って操作してください。
- 3 再起動する画面が表示されたら [OK] をクリックし、再起動します。

以上で、スキャナードライバーの削除の完了です。

Mac OS 環境の場合

- 1 [Macintosh HD] (システムのハードディスク) の [ライブラリ] - [Applications Support] - [KONICA MINOLTA] を開き、本機のフォルダー内の削除プログラムをダブルクリックします。
- 2 [アンインストール] をクリックします。
- 3 以降は、表示される画面に従って操作してください。
- 4 アンインストール完了のメッセージが表示されたら [OK] をクリックします。

以上で、スキャナードライバーの削除の完了です。

10

よく使う宛先を登録する（短縮
宛先）

10 よく使う宛先を登録する（短縮宛先）

短縮宛先について

よく送信する宛先を本機に登録することで、送信のたびに宛先を入力する手間が省けます。本機に登録した宛先を、短縮宛先と呼びます。

短縮宛先は、2000 件まで登録できます。登録できる宛先の種類は、送信のしかたによってメールアドレスやコンピューター名などになります。



関連設定（管理者向け）

ユーザーに対して、宛先の登録や変更を許可するかどうかを選べます。

設定するには：[設定メニュー] - [管理者設定] - [環境設定] - [ユーザー操作禁止設定] - [変更禁止設定] - [登録宛先変更]（初期値：[許可]）



参照

短縮宛先は Web Connection でも登録できます。また、FTP 宛先、WebDAV 宛先は、Web Connection でのみ登録できます。詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

E-mail 宛先を登録する

宛先とするメールアドレスを登録します。

- 1 [設定メニュー] - [宛先 / ボックス登録] - [E-mail 送信] - [新規登録] をタップします。
- 2 宛先情報を入力し、[OK] をタップします。

設定	説明
[No.]	宛先の登録番号です。空いている小さい数字から自動的に登録されます。
[名称]	宛先の名前を入力します（半角 72 文字／全角 10 文字以内）。
[常用]	よく送信する宛先の場合に設定します。設定した宛先は [常用] に表示されるため、宛先の指定が簡単になります。
[検索文字]	宛先を名前でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。
[E-mail]	宛先とするメールアドレスを入力します（ASCII 文字 320 バイト以内）。



参考

- 登録した宛先の設定内容を確認するときは、登録名を選び、[設定確認] をタップします。
- 登録した宛先の設定内容を変更するときは、登録名を選び、[編集] をタップします。
- 登録した宛先を削除するときは、登録名を選び、[削除] をタップします。

SMB 宛先を登録する

宛先とするコンピュータのコンピュータ名（ホスト名）または IP アドレスを登録します。また、ファイルを保存するフォルダーや、フォルダーへのアクセス情報も登録します。

- 1 [設定メニュー] - [宛先 / ボックス登録] - [SMB] - [新規登録] をタップします。
- 2 宛先情報を入力し、[OK] をタップします。

設定	説明
[No.]	宛先の登録番号です。空いている小さい数字から自動的に登録されます。
[名称]	宛先の名前を入力します（半角 72 文字／全角 10 文字以内）。
[常用]	よく送信する宛先の場合に設定します。設定した宛先は [常用] に表示されるため、宛先の指定が簡単になります。
[検索文字]	宛先を名前でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。
[接続先]	宛先とするコンピュータの情報を登録します。
[ホスト名]	宛先とするコンピュータ名（ホスト名）または IP アドレスを入力します。 ・ コンピューター名（ホスト名）の入力例：「HOME-PC」 ・ IP アドレス（IPv4）の入力例：「192.168.1.1」 ・ IP アドレス（IPv6）の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ファイルパス]	[ホストアドレス] に入力したコンピュータの共有フォルダー名を入力します（255 バイト以内）。 ・ 入力例：「scan」 共有フォルダー内のフォルダーを指定したいときは、フォルダー名の間に「¥」を入力します。 ・ 入力例：「scan¥document」
[ユーザー ID]	[ファイルパス] に入力したフォルダーのアクセス権限を持つユーザー名を入力します（255 バイト以内）。 ・ ワークグループユーザーの場合は、ユーザー名だけを入力します。入力例：「User01」 ・ ドメインユーザーの場合は、ユーザー名 @ ドメイン名を入力します。入力例：「User01@abc.local」
[パスワード]	パスワードを入力します（127 バイト以内）。
[参照]	ネットワーク上のコンピュータを検出して、共有フォルダーを選びます。選んだフォルダーの情報が登録されます。



参考

- 登録した宛先の設定内容を確認するときは、登録名を選び、[設定確認] をタップします。
- 登録した宛先の設定内容を変更するときは、登録名を選び、[編集] をタップします。
- 登録した宛先を削除するときは、登録名を選び、[削除] をタップします。

11

索引

11 索引

E

E-mail 送信	
送信のしかた	2-6
S/MIME	2-9
Scan to Me	2-8
概要	2-2
準備	2-3

F

FTP 送信	
URL 通知	4-7
概要	4-2
準備	4-3
送信のしかた	4-5

H

HDD 保存	
URL 通知	6-8
概要	6-2
ダウンロード	6-6
保存のしかた	6-3
削除	6-7

S

SMB 送信	
Scan to Home	3-20
URL 通知	3-21
概要	3-2
準備	3-3
送信のしかた	3-18

T

TWAIN	
概要	9-2
準備	9-3
スキャンのしかた	9-5

U

USB メモリー保存	
概要	7-2
準備	7-2
保存のしかた	7-3

W

WebDAV 送信	
URL 通知	5-7
概要	5-2
準備	5-3
送信のしかた	5-5

WIA	
概要	9-2
準備	9-3
スキャンのしかた	9-7

WS スキャン	
概要	8-2
コンピューターから取込む	8-9
準備	8-3
送信のしかた	8-7

あ行

宛先登録	10-2
E-mail 送信	10-2
SMB 送信	10-3
宛先の指定	1-8
LDAP	1-12
常用	1-8
直接入力	1-10
登録宛先	1-9
履歴	1-11

か行

解像度	1-13
片面 / 両面	1-14
カラー	1-13
原稿画質	1-17
原稿サイズ	1-13
原稿セット方向	1-16
原稿のとじしろ	1-16
件名	1-15

さ行

下地調整	1-17
シャープネス	1-17
スキャナードライバー	
アンインストール	9-8
インストール (Mac OS)	9-4
インストール (Windows)	9-4
スキャン送信	
概要	1-2
送信のしかた	1-3
設定	1-13

た行

短縮宛先	10-2
------	------

な行

濃度	1-17
----	------

は行

ファイル形式	1-14
プログラム	1-5
登録	1-5
呼出し	1-7
文書名	1-15
本文	1-15

や行

読み込みサイズ	1-13
---------	------

ら行

連続読み込み	1-16
--------	------



KONICA MINOLTA

国内総販売元
コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社

製造元
コニカミノルタ株式会社